



さりげない安心と感動する制動を

2014年3月期 決算説明会資料

2014年5月9日
曙ブレーキ工業株式会社

2014年3月期 実績

2014年3月期: サマリー

前期比増収増益、ほぼ想定通りの着地

市場環境

- 国内: 個人消費や設備投資などの着実な拡大により景気は回復。自動車業界は消費税増税前の駆け込み需要もあり、生産・内需ともに数年ぶりの高水準。
- 北米: 金融の量的緩和効果から、雇用も徐々に持ち直し、経済は緩やかに拡大基調に。大型ピックアップやSUV等を中心に自動車販売も好調。
- 欧州: 市場縮小が続いていたが、第3四半期には漸く景気も底を打った模様。自動車需要も回復の兆し。
- 中国: 輸出の回復もありGDPは7%半ばの成長を確保。自動車販売は前年比13%を超える成長。
- タイ: 前半の好調が、政情不安もあり後半に失速。自動車生産は輸出の伸長により過去最高を記録したが、内需は前年を下回った。
- インドネシア: 経済成長は鈍化したが、自動車販売は過去最高。

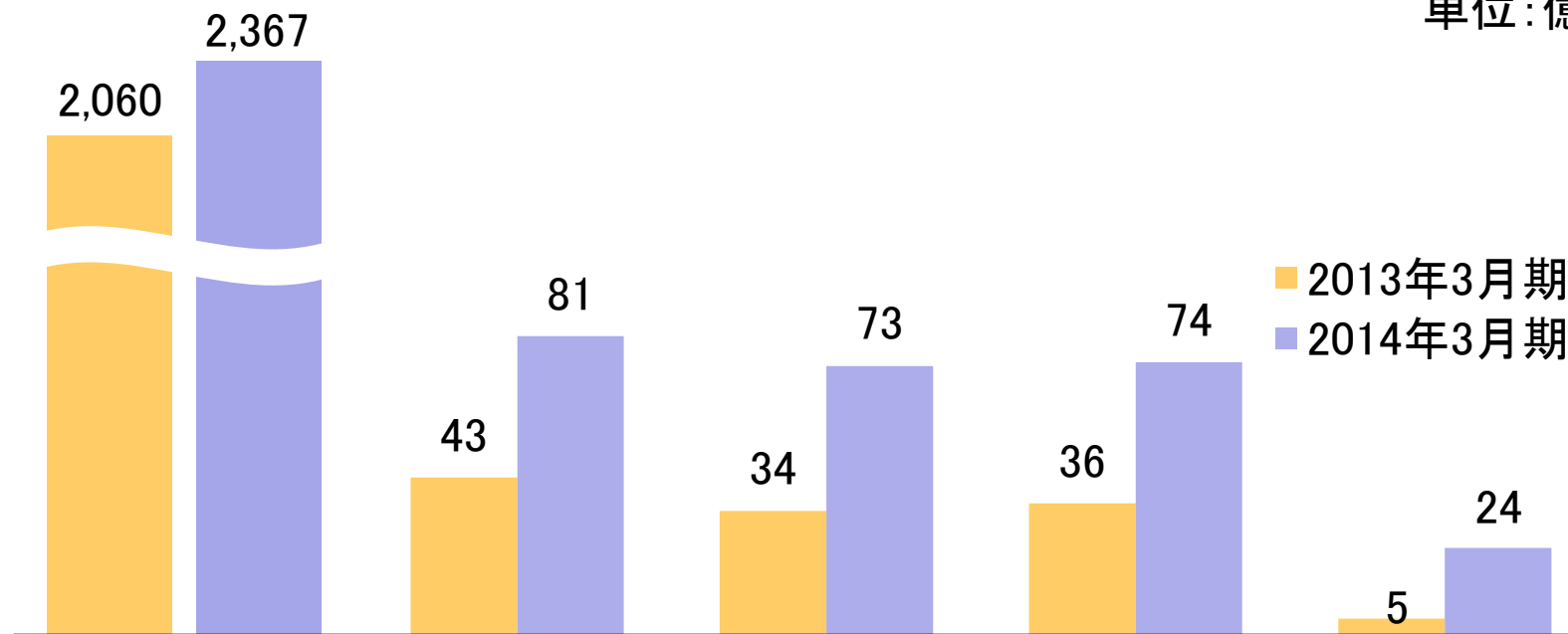
連結業績

売上高2,367億円、営業利益81億円と前期比で増収増益。当期純利益も24億円とほぼ期初予想通り。

2014年3月期：連結業績(対前年同期)

売上から最終利益まで前期を上回る結果

単位：億円



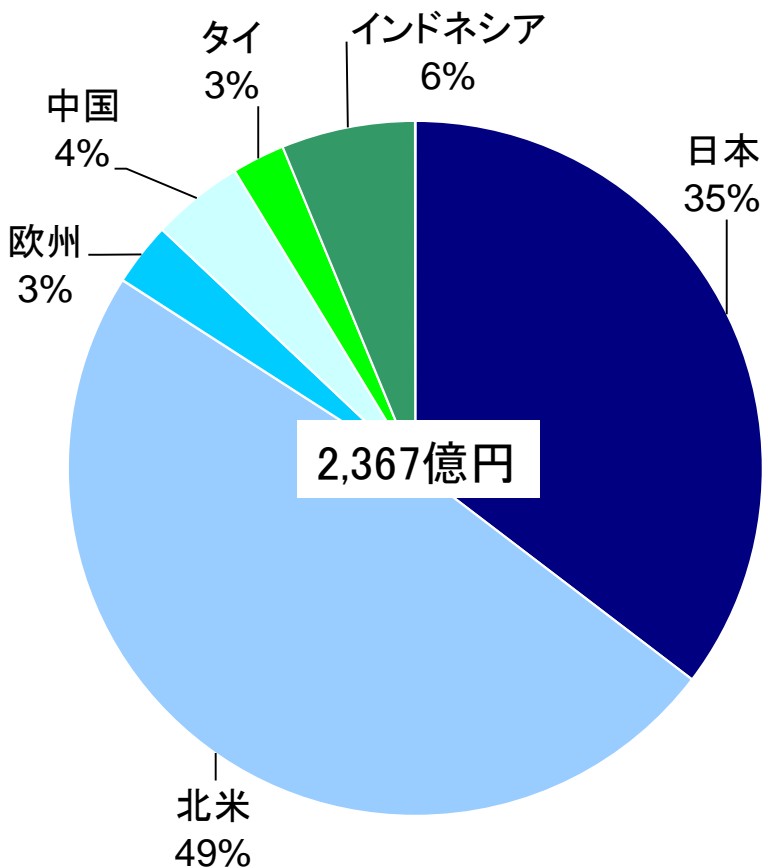
	売上高	営業利益	経常利益	税引前 当期純利益	当期純利益
前年差	+306	+38	+39	+38	+19
前年比	+15%	+87%	+114%	+105%	+368%

2014年3月期: 売上高 [地域別]

為替換算影響もあり海外が拡大し、全体の65%に

単位:億円

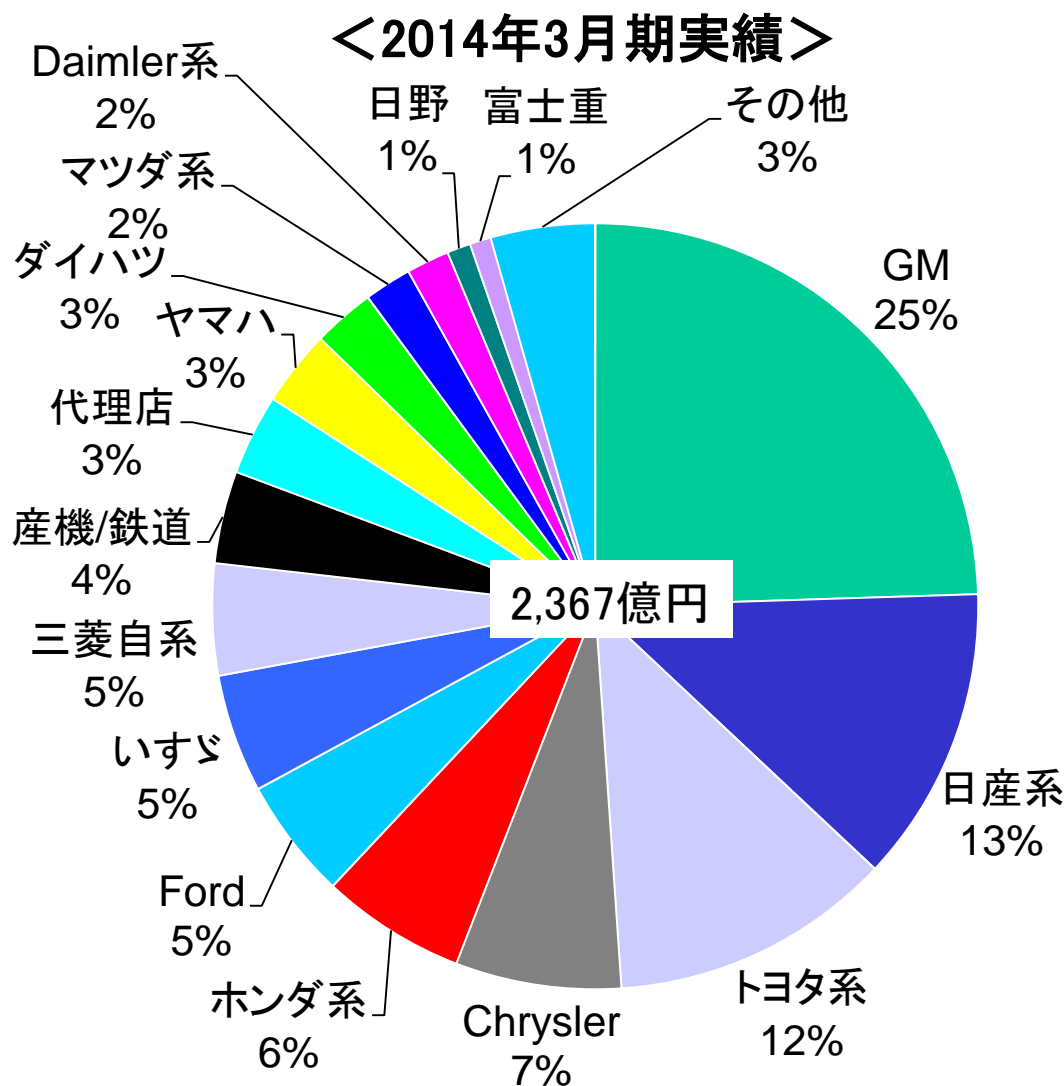
<2014年3月期実績>



	13年 3月期	14年 3月期	差	為替 換算 影響
日本	895	892	△2	—
北米	984	1,228	+244	+224
欧州	49	74	+25	+15
中国	61	108	+47	+22
タイ	51	62	+11	+11
インドネシア	132	157	+25	+13
アジア計	243	326	+83	+47
小計	2,171	2,521	+350	+286
連結消去	△110	△154	△44	—
合計	2,060	2,367	+306	+286

2014年3月期: 売上高 [お客様別]

GM、日産、トヨタで約半分を占める。前年とほぼ変わらぬシェア



	13年 3月期	14年 3月期
GM	24%	25%
日産系	13%	13%
トヨタ系	13%	12%
Chrysler	6%	7%
ホンダ系	7%	6%
Ford	4%	5%
いすゞ	5%	5%
三菱自	5%	5%
産機/鉄道	4%	4%
代理店	3%	3%
その他	16%	15%
合計	100%	100%

2014年3月期: 地域別の状況(対前年同期)

海外は為替影響もあり増収、日本を含む全地域で前期比増益

単位:億円	売上高		
	'13/3月期	'14/3月期	差
日本	895	892	△ 2
北米	984	1,228	244
欧州	49	74	25
中国	61	108	47
タイ	51	62	11
インドネシア	132	157	25
アジア	243	326	83
連結消去	△ 110	△ 154	△ 44
合計	2,060	2,367	306

営業利益		
'13/3月期	'14/3月期	差
23	34	11
1	7	7
△ 8	△ 6	2
5	16	11
1	5	4
18	21	3
24	42	18
3	3	△ 0
43	81	38

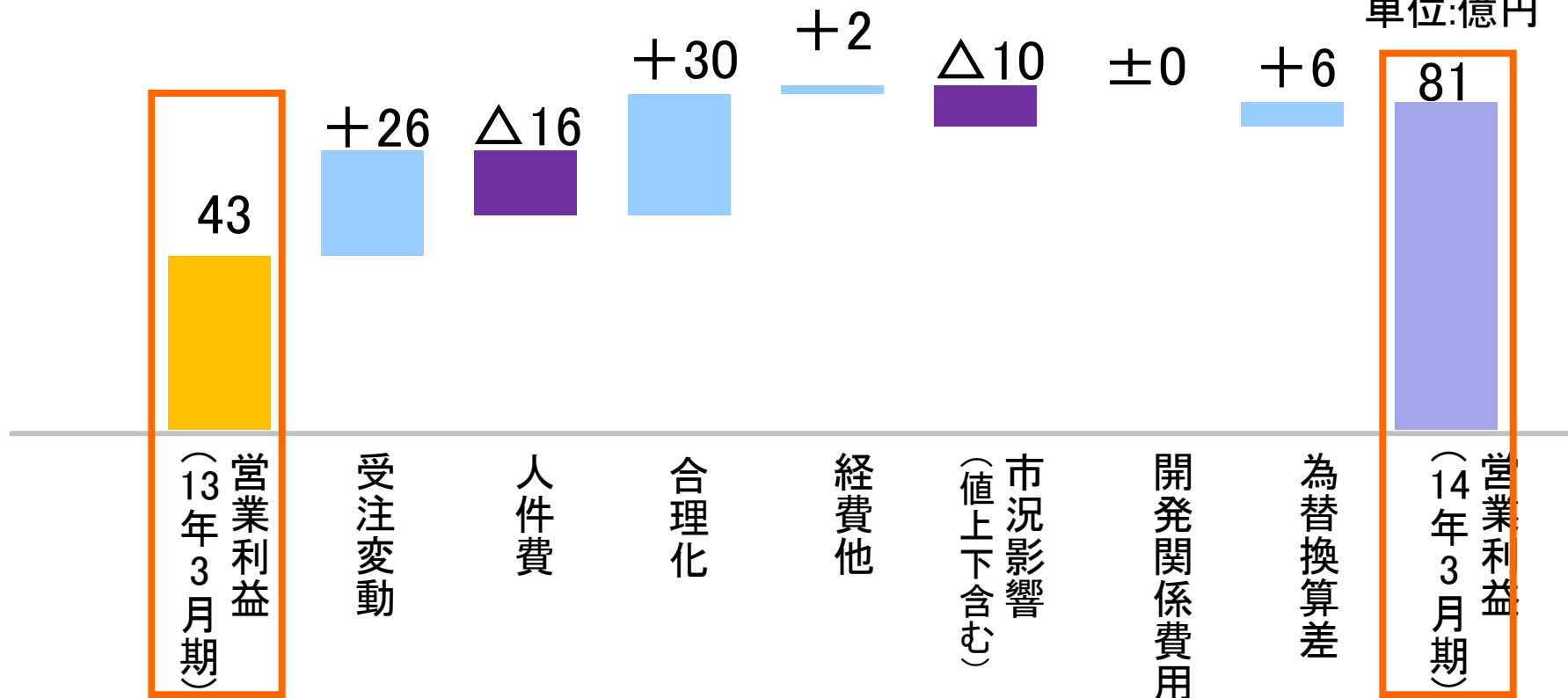
為替 USD: 80.1→98.0、EUR: 107.4→135.1、CNY: 12.7→16.0、THB: 2.6→3.2、IDR: 0.0086→0.0094

- 国内:** 消費税上げ前の駆け込み需要があったが、完成車メーカーの海外生産移管の影響で、前期比若干の減収。想定は下回ったが、人員削減・合理化効果で増益
- 北米:** デトロイト3からの受注拡大に加え円安効果で増収。価格改定や合理化も進み黒字化が定着
- 欧州:** 為替換算影響で売上増加。値上げ交渉、原価低減、固定費削減で、損失が減少
- 中国:** 日系完成車メーカーからの受注回復と為替影響で、売上・利益ともに増大
- タイ:** 上期の好況を下期の落ち込みが相殺したが、基幹部品の内製化などで増益
- インドネシア:** 2輪の市場が持ち直した上、4輪受注が好調。為替の影響もあり、増収増益

2014年3月期： 営業利益増減分析(対前年差)

海外は為替影響もあり増収、日本を含む全地域で前期比増益

単位:億円



日本	23	Δ 3	+2	+15	+11	Δ 6	Δ 8		34
北米	1	+3	Δ 13	+10	Δ 2	+2	+5	+1	7
欧州	Δ 8	+1		+2	Δ 2		+3	Δ 1	Δ 6
アジア	24	+25	Δ 6	+4	Δ 5	Δ 6		+6	42
連結消去	3								4

2014年3月期：地域別の状況（対予測）

日本と中国以外は、上期終了時点での予測をほぼ達成

単位：億円	売上高		
	予測	実績	差
日本	880	892	12
北米	1,173	1,228	55
欧州	64	74	10
中国	104	108	4
タイ	62	62	△ 0
インドネシア	154	157	3
アジア	320	326	6
連結消去	△ 140	△ 154	△ 14
合計	2,297	2,367	70

営業利益		
予測	実績	差
38	34	△ 4
7	7	0
△ 6	△ 6	0
13	16	3
5	5	0
21	21	△ 0
39	42	3
2	3	1
80	81	1

為替 USD: 96.9→98.0、EUR: 131.0→135.1、CNY: 15.8→16.0、THB: 3.2→3.2、IDR: 0.0093→0.0094

- 国内：** 完成車メーカーの海外生産移管があったが、消費税上げ前の駆け込み需要があり、若干の増収。人員削減・合理化効果が想定を下回り、利益が落ち込む
- 北米：** デトロイト3からの受注好調もあり、予測を上回り実質増収増益。黒字化が定着
- 欧州：** 為替換算影響で売上増加。原価低減、固定費削減の効果で、損失が縮小傾向
- 中国：** 日系完成車メーカーからの受注拡大とミックス改善で、売上・利益ともに増大
- タイ：** 上期の好況を下期の落ち込みが相殺したが、基幹部品の内製化等で予測通り
- インドネシア：** 2輪の市場が回復した上、4輪受注が好調により、予測通りの利益

(日本)2013年施策実行の総括・2014年の課題

人員の適正化・補修品ビジネスの更なる掘り起こしに遅れ

	課題	現状	原因	対策
1	人員の最適配置 間接人員の適正化	遅れ (国内従業員) 12年末 4,025人 14年3月末 3,945人	国内客先の 受注変動	1. 受注予測の精度向上 2. 間接業務のムダの洗い出し
2	補修品ビジネスの拡大	遅れ(着手済み)	ネットワーク の弱体化、 品揃え	1. 国内体制強化 2. 品揃え充実 3. 小売り現場活性化 4. 大口客先開拓
3	生産合理化推進	計画通り		1. エキストラコストの削減 2. 固定費削減継続
4	経費削減	計画通り		1. 間接業務の効率化 2. 業務委託の内製化
5	不採算ビジネスの収益 改善	計画通り		1. 個別損益把握 2. 仕様・買い方見直し

2014年3月期: 営業利益から当期純利益まで

経常利益73億円、税前利益74億円、当期純利益24億円、何れも改善

単位: 億円

前年同期

主な勘定

営業利益

43

営業外収支△9

支払利息
為替差益

△ 12
+ 4

経常利益

34

特別損益 +2

投資有価証券売却益 + 4
固定資産減損損失 △ 2
および売廃却損

税前当期純利益

36

法人税等 △ 20
少数株主利益 △ 11

当期純利益

5

当期

主な勘定

営業利益

81

営業外収支△8

支払利息
為替差益

△ 13
+ 6

経常利益

73

特別損益 +1

投資有価証券売却益 + 5
固定資産減損損失 △ 4
および売廃却損

税前当期純利益

74

法人税等 △ 33
少数株主利益 △ 16

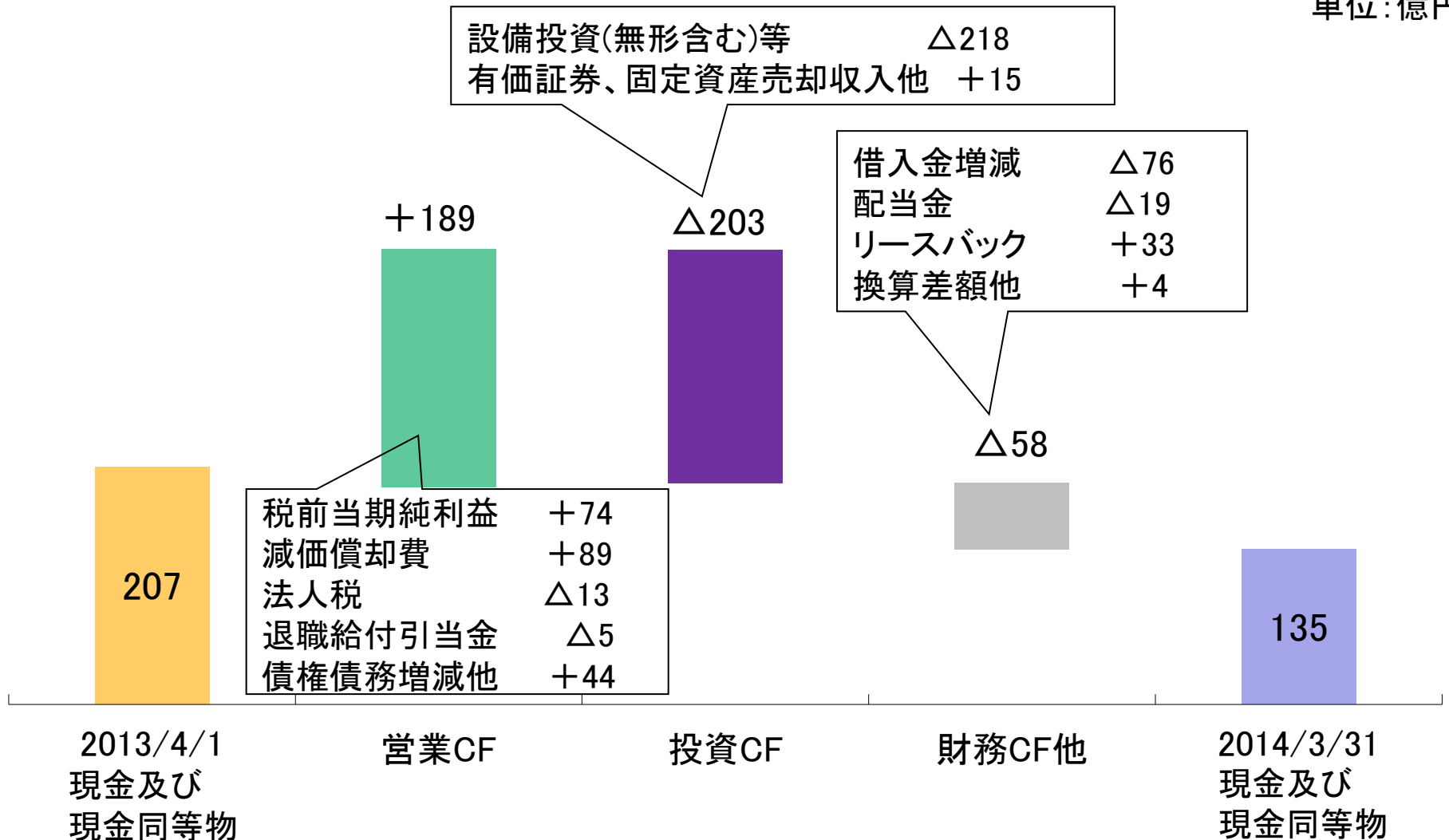
当期純利益

24

2014年3月期: キャッシュ・フロー

設備投資が増加した事で、FCFは若干の赤字

単位: 億円



2014年3月期：研究開発費、設備投資/償却費

投資は新規立上げ・増産対応で増加、R&Dコストは計画通り

研究開発費

単位：億円

	13年3月期 実績	14年3月期 計画	14年3月期 実績
研究開発費	100	110	105

※製品の適用開発に関連する費用も含めております。

14年3月期 先行開発案件

- ・電動ブレーキ
- ・HP/HE用ブレーキ
- ・環境対応型摩擦材(銅フリー)
- ・3点セット(モジュール)
- ・低コストブレーキ

設備投資・償却費

単位：億円

	13年3月期 実績	14年3月期 計画	14年3月期 実績
設備投資	198	150	218
償却費	86	90	89

※北米の新規立上げ投資が増えたこと、並び増産対応により、設備投資が対前年及び対計画に対して増加しております。

14年3月期 主要設備投資案件

- ・次世代摩擦材製造設備
- ・研究開発設備
- ・次期モデルおよび増産対応
- ・北米モジュール、ローター設備
- ・メキシコ建物、インフラ

2015年3月期 業績見通し

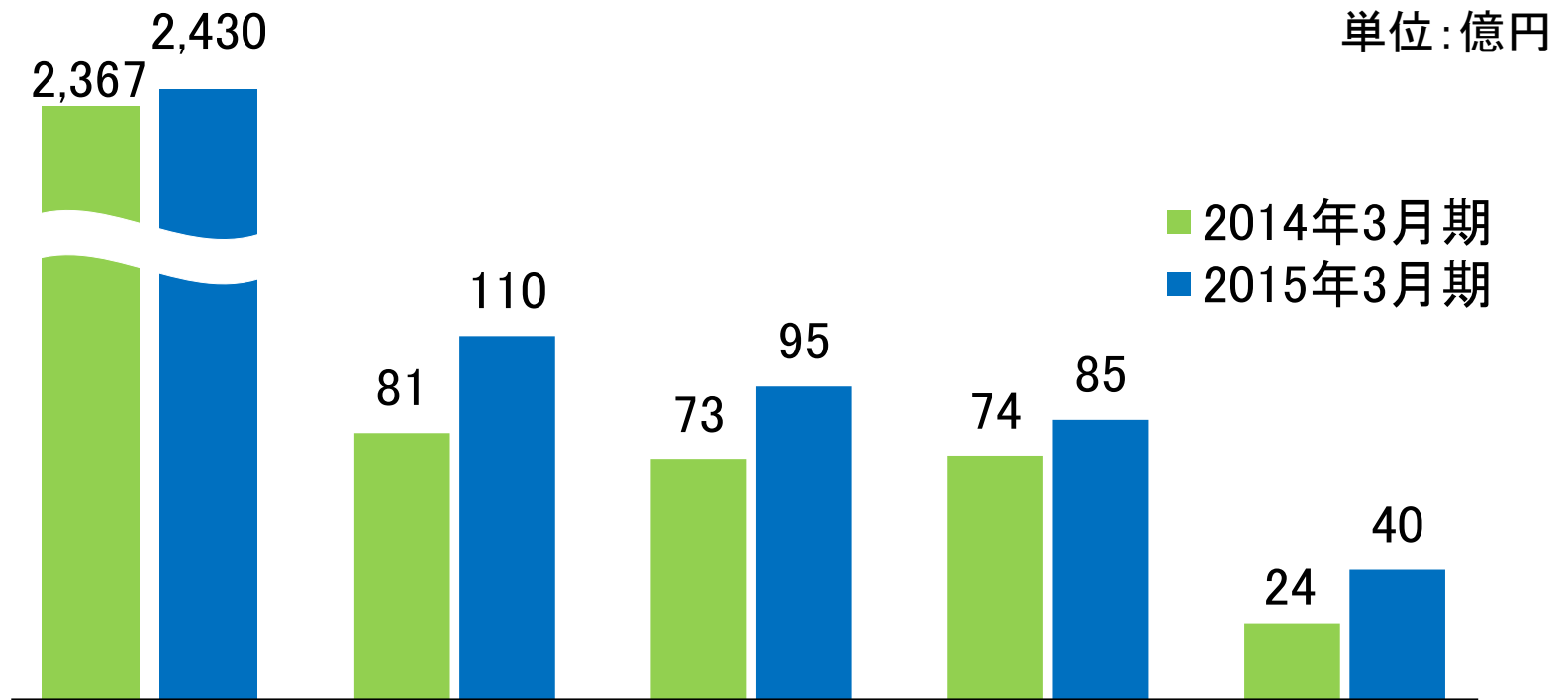
2014年自動車市場見通し

日本とタイが減少するが、他は増加の見通し

台数(百万台)	2013	2014	前年比	備考
日本	9.7	9.3	△4.1%	生産台数
米国	15.6	16.0	+2.7%	販売台数、IHSデータ(2014/4/26時点)
欧州	11.9	12.0	+1.3%	販売台数、IHSデータ(2014/4/26時点)
中国	22.0	24.0	+9.2%	販売台数、マークラインズデータ(2014/4/26時点)
インドネシア	7.7	8.0	+3.9%	2輪販売台数、インドネシア二輪車製造業者協会
	1.2	1.2	+0.0%	4輪販売台数、マークラインズデータ(2014/4/26時点)
タイ	2.4	2.2	△8.7%	生産台数、IHSデータ(2014/4/26時点)

2015年3月期見通し： 連結業績(対前年同期)

売上から当期純利益まで前年度を上回る見通し



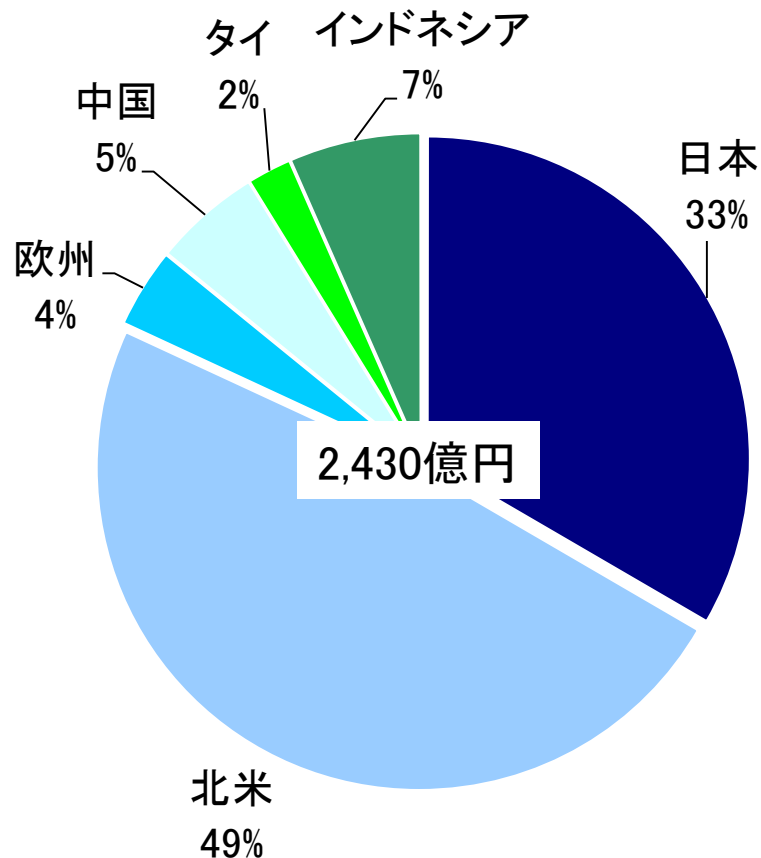
	売上高	営業利益	経常利益	税前提 当期純利益	当期純利益
前年差	+63	+29	+22	+11	+16
前年比	+3%	+36%	+31%	+16%	+65%

2015年3月期見通し: 売上高 [地域別]

日本とタイが減少するが、他地域は拡大の見通し

単位:億円

<2015年3月期見通し>

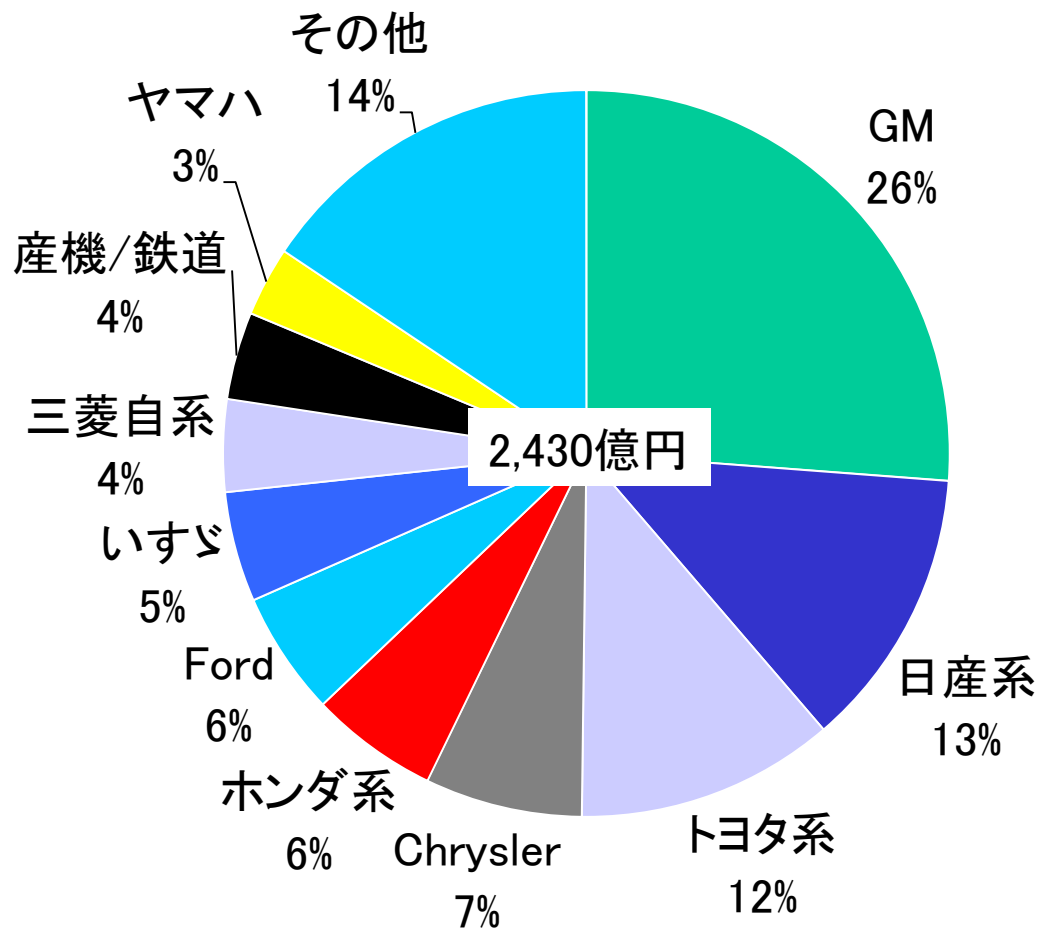


	14年 3月期	15年 3月期	差	為替 換算 影響
日本	892	867	△25	—
北米	1,228	1,260	+32	+25
欧州	74	103	+29	+4
中国	108	139	+31	+4
タイ	62	57	△5	△2
インドネシア	157	171	+14	△8
アジア計	326	367	+41	△6
小計	2,521	2,597	+76	+22
連結消去	△154	△167	△13	—
合計	2,367	2,430	+63	+22

2015年3月期見通し: 売上高 [お客様別]

GMが増加する他、大きな変動はなし

<2015年3月期見通し>



	14年 3月期	15年 3月期
GM	25%	26%
日産系	13%	13%
トヨタ系	12%	12%
Chrysler	7%	7%
ホンダ系	6%	6%
Ford	5%	6%
いすゞ	5%	5%
三菱自	5%	4%
産機/鉄道	4%	4%
ヤマハ	3%	3%
その他	15%	14%
合計	100%	100%

2015年3月期見通し：地域別の状況

北米とインドネシアが引き続き伸長、連結営業利益で100億を超える

単位：億円	売上高		
	'14/3月期	'15/3月期	差
日本	892	867	△ 25
北米	1,228	1,260	32
欧州	74	103	29
中国	108	139	31
タイ	62	57	△ 5
インドネシア	157	171	14
アジア	326	367	41
連結消去	△ 154	△ 167	△ 13
合計	2,367	2,430	63

営業利益		
'14/3月期	'15/3月期	差
34	45	11
7	21	14
△ 6	△ 2	4
16	14	△ 2
5	4	△ 1
21	26	5
42	44	2
3	2	△ 1
81	110	29

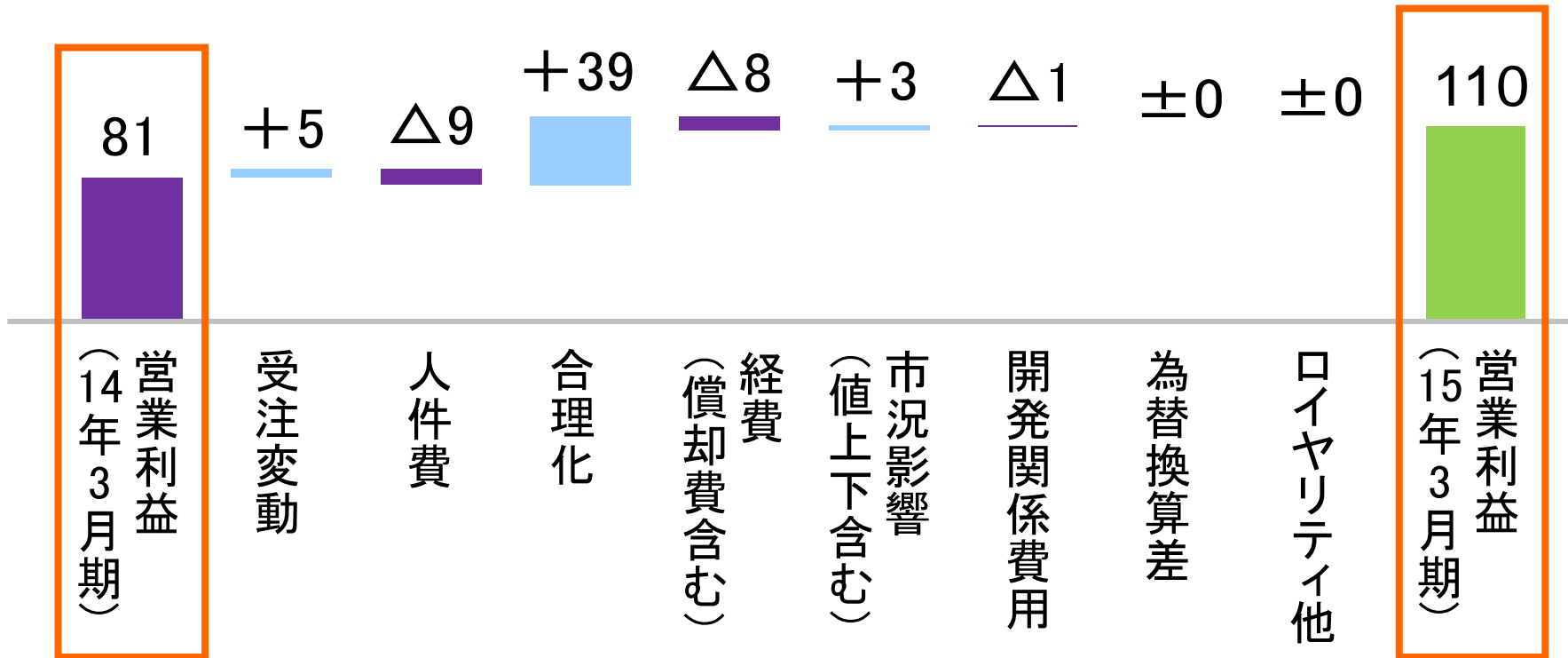
為替 USD: 98.0→100.0、EUR: 135.1→140.0、CNY: 16.0→16.4、THB: 3.2→3.1、IDR: 0.0094→0.0090

- 【日本】 生産台数の減少に伴い減収なるも、合理化の推進とroyalty収入の増加で増益の見通し
- 【北米】 新規ビジネス立上げ、不採算案件の減少、生産区分の最適化、物流コスト削減
- 【欧州】 材料費削減・生産性向上による合理化、適正価格への値上げ
- 【アジア】 中国：新規ビジネス立上げ、労務費up、タイ：政情不安による受注減
インドネシア：新規ビジネス増、材料費削減・生産性向上による合理化

2015年3月期見通し:営業利益増減分析(対前年同期)

受注増と合理化が新規受注に伴う経費増を上回り、約30億円の増益

単位:億円



日本	34	△ 17	△ 2	18	1	△ 4	△ 1	15	45
北米	7	11		13	△ 3	3	1	△ 11	21
欧州	△ 6	1	△ 3	3	1	3		△ 0	△ 2
アジア	43	11	△ 4	6	△ 7		0	△ 4	44

2015年3月期見通し: 営業利益から当期純利益まで

当期純利益は前年の24億円から40億円に増加

2014年3月期

主な勘定

営業利益

81

営業外収支△8

支払利息 △ 13
為替差益 + 6

経常利益

73

特別損益 +1

投資有価証券売却益 +5
固定資産減損損失 △ 4
および売廃却損

税前当期純利益

74

法人税等 △ 33
少数株主利益 △ 16

当期純利益

24

2015年3月期

主な勘定

単位:億円

営業利益

110

営業外収支△15

支払利息 △ 15

経常利益

95

特別損益 △10

固定資産減損損失 △ 10
および売廃却損

税前当期純利益

85

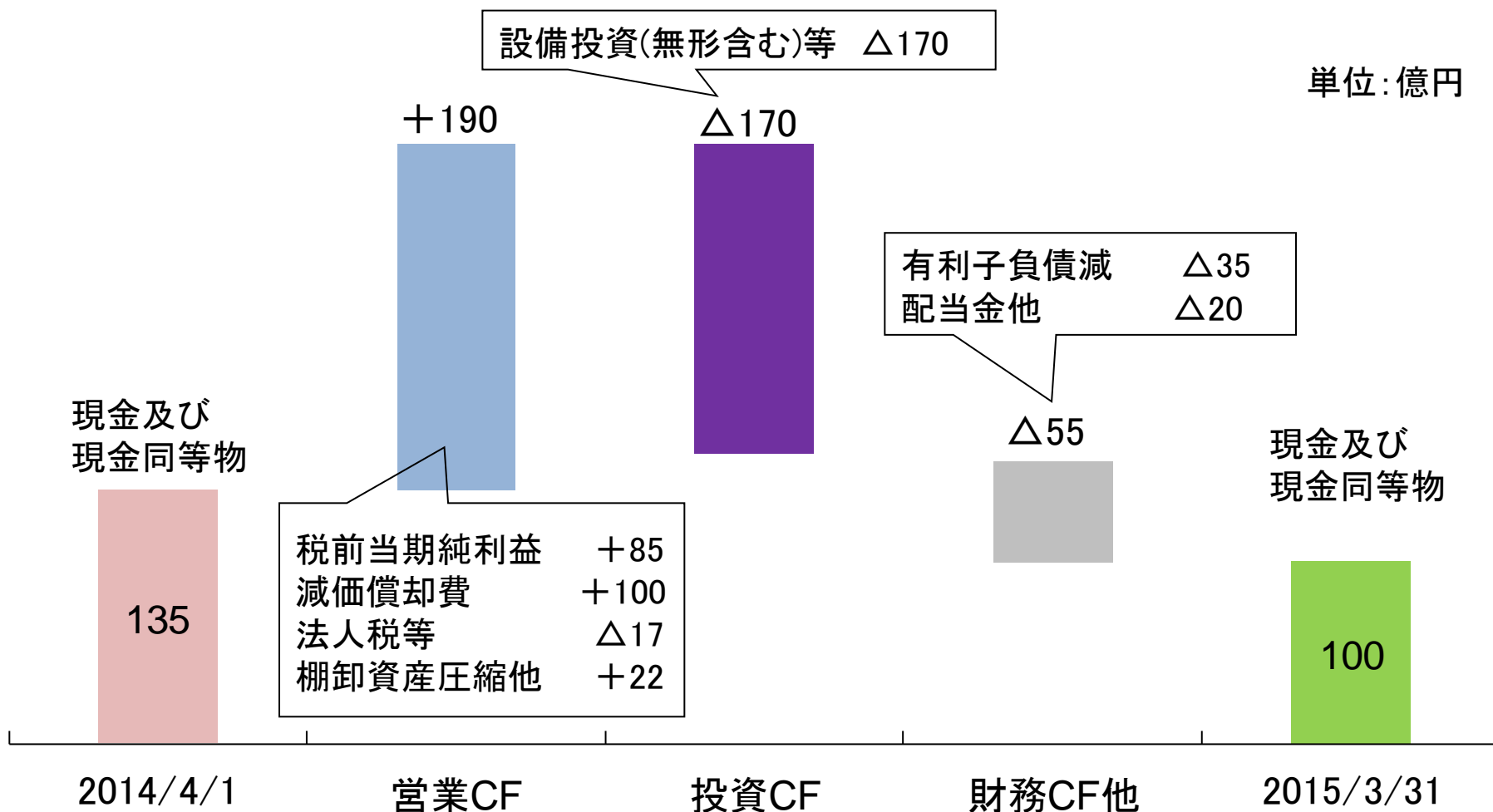
法人税等 △ 27
少数株主利益 △ 18

当期純利益

40

2015年3月期: 連結CF見通し

FCFを+にすると共に、有利子負債削減で現金残高は100億円の予定



2015年3月期見通し:研究開発費、設備投資/償却費

研究開発費は104億円、設備投資・償却費は夫々170億円・100億円

研究開発費

単位:億円

15年3月期 主要開発案件

- ・電動ブレーキ
- ・HP/HE用ブレーキ
- ・環境対応型摩擦材
- ・3点セット(モジュール)
- ・低コストブレーキ

	13年3月期 実績	14年3月期 実績	15年3月期 見通し
研究開発費	100	105	104

※製品の適用開発に関連する費用も含めております。

設備投資/償却費

単位:億円

15年3月期 主要設備投資案件

- ・HP生産設備投入
- ・研究開発設備・インフラ
- ・増産投資
- ・次期モデル対応
- ・生産体制の増強

	13年3月期 実績	14年3月期 実績	15年3月期 見通し
設備投資	198	218	170
償却費	86	89	100

aNF30 2013 中計進捗状況

新中期経営計画 – akebono New Frontier 30 – 2013

20年には世界パッドシェア30%と営業利益率12%を目指す

【長期ビジョン=2020年に目指す姿】

Global30の達成

8-8-12の達成

グローバル供給網確立

グローバル開発体制確立

新中期経営計画 akebono New Frontier 30 – 2013

戦略

- 将来に向けた技術の差別化
- 革命的な原価低減に向けた努力の継続と海外への展開
- 日米中心から日米欧アジアへのグローバル化の加速

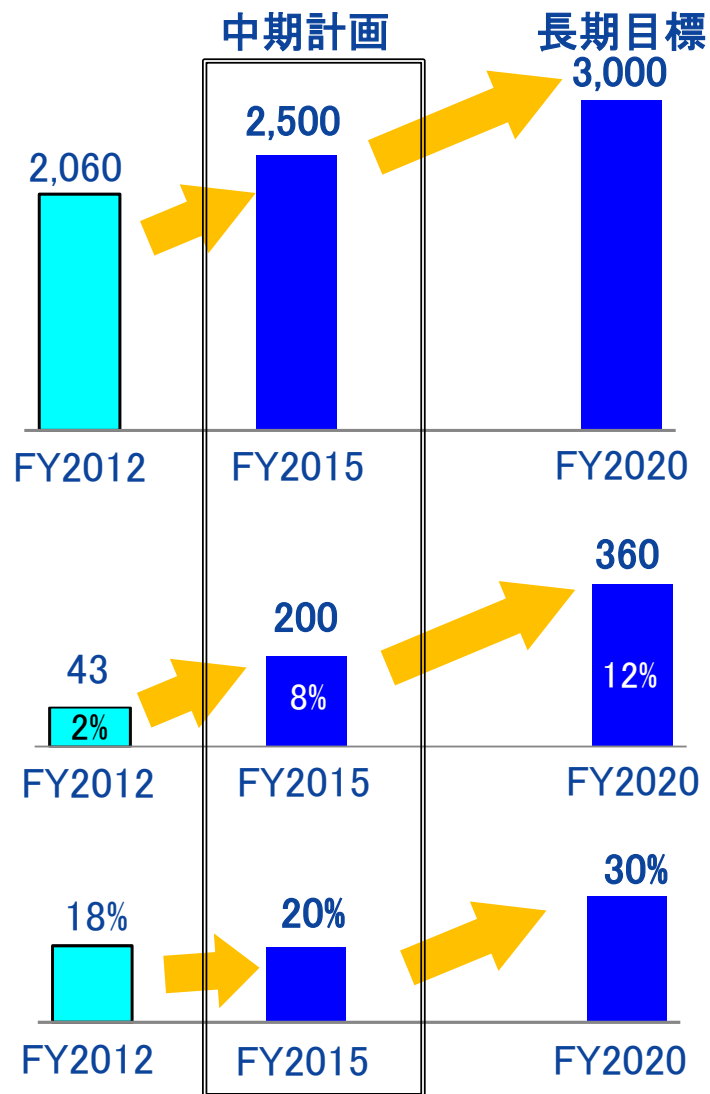
新中期経営計画 - 2020年までの数値目標

15年は20年のゴールを目指した通過点の位置づけ

(単位: 億円)



*シェア%は 当社調査による



新中期経営計画 – 2015年までの数値目標

15年には自己資本比率を上げ、FCFも黒字に

(単位: 億円)

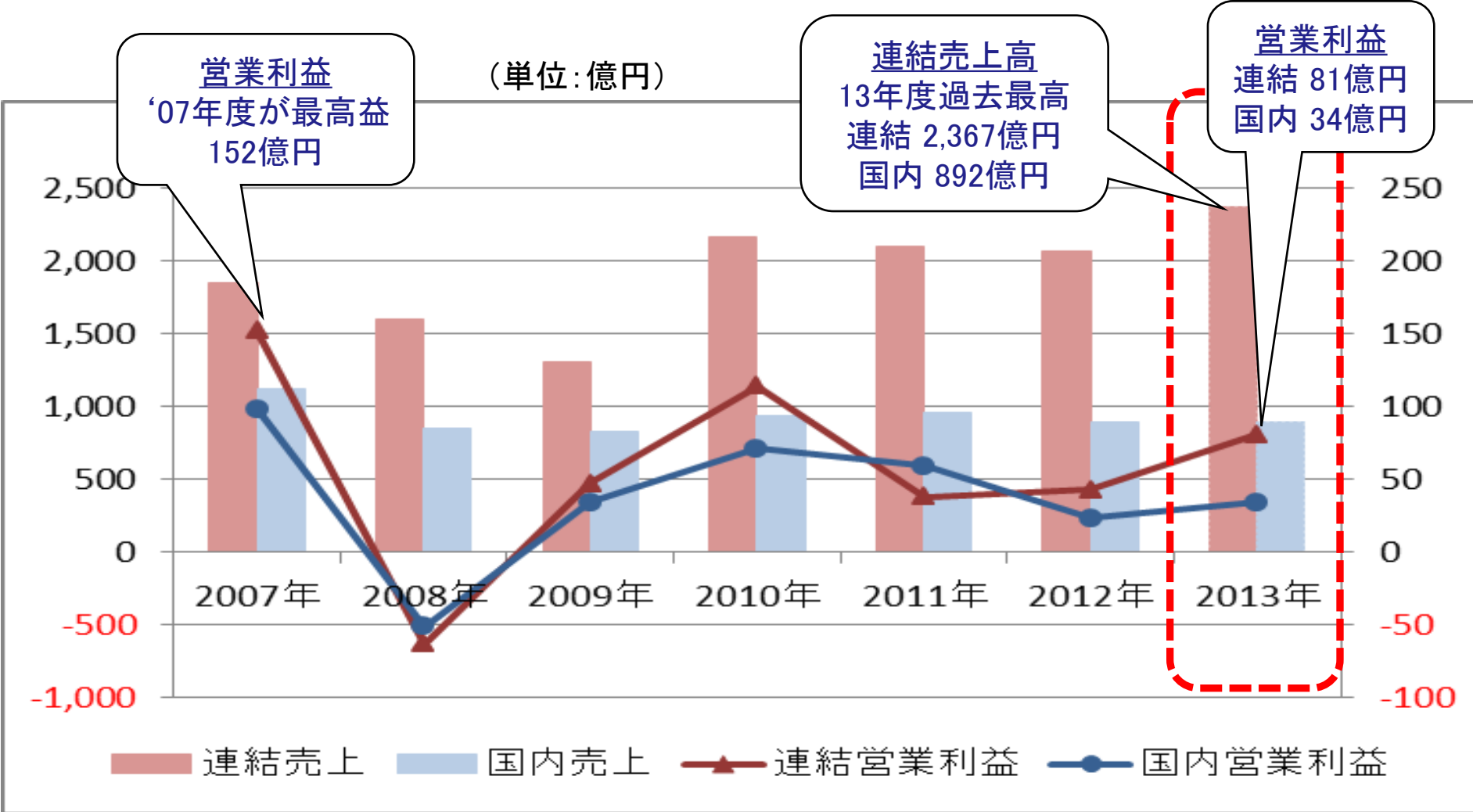
収益目標	FY2012 結果	FY2013 結果	FY2014 見通し	FY2015 目標
売上高	2,060	2,367	2,430	2,500
営業利益	43	81	110	200
当期純利益	5	24	40	120
EBITDA (Reference only)	129	170	210	305

財務目標 (B/S & C/F)	FY2012 結果	FY2013 結果	FY2014 見通し	FY2015 目標
総資産	1,866	1,992	2,000	1,950
自己資本比率	24.9%	26.4%	28%	Over 30%
ネットD/Eレシオ	1.4X	1.45X	1.1X	0.8X
フリーキャッシュフロー	35	-15	20	100



新中期経営計画 - 売上・営業利益の推移

13年度は過去最高の売上、利益も回復傾向



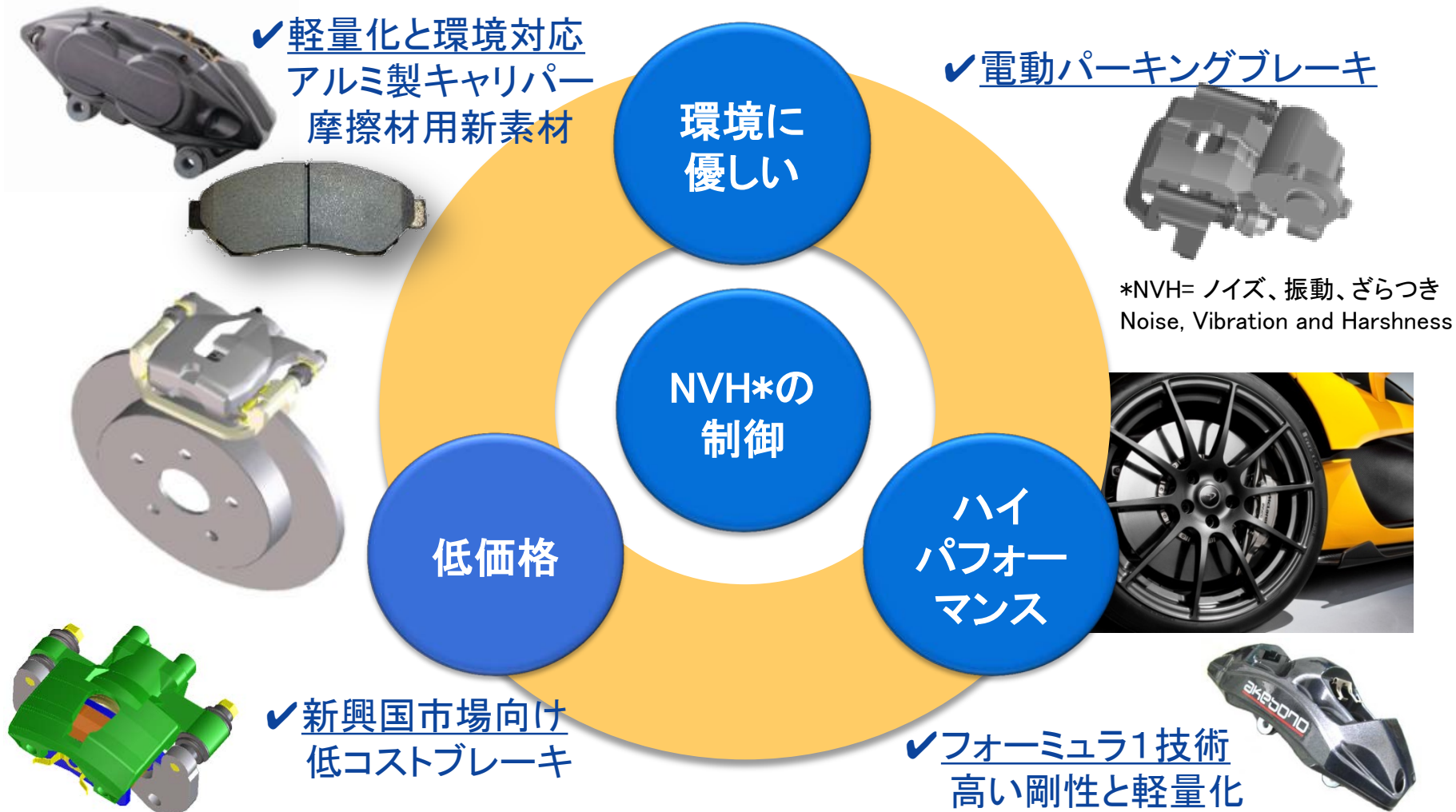
新中期経営計画 – 成長戦略実現の為の施策

競争力の強化

	戦略	対象	内容
1	将来に向けた技術の差別化	<ol style="list-style-type: none">1. HP2. Global Platform3. 新興国4. 環境5. 新技術	<ol style="list-style-type: none">1. 受注ビジネスの確実な立上げ2. グローバルでの供給体制確立3. ニーズに合った低コスト品の開発 現地開発・現地調達・現地生産4. 銅レス・フリー、アルミ化、低引き摺り5. 電動ブレーキ、次世代摩擦材設備
2	革命的原価低減と海外展開	<ol style="list-style-type: none">1. 総原価低減2. 不採算案件の改善3. 人員適正化	<ol style="list-style-type: none">1. C&S+tの推進2. 品番ごとの原価・費用分析3. 生産再編、稼働率平準化、リソース再配分
3	日米欧から日米欧亜へのグローバル化加速	<ol style="list-style-type: none">1. 人材開発2. 新興国進出3. 開発・生産	<ol style="list-style-type: none">1. Ai-villageの活用、グローバル人材登用、駐在員の役割見直し2. メキシコ進出、ベトナム拡充、南米戦略3. 欧州メカ開発・生産開始、ASEANセンター整備

技術の差別化

開発の基本方針「お客様第一」

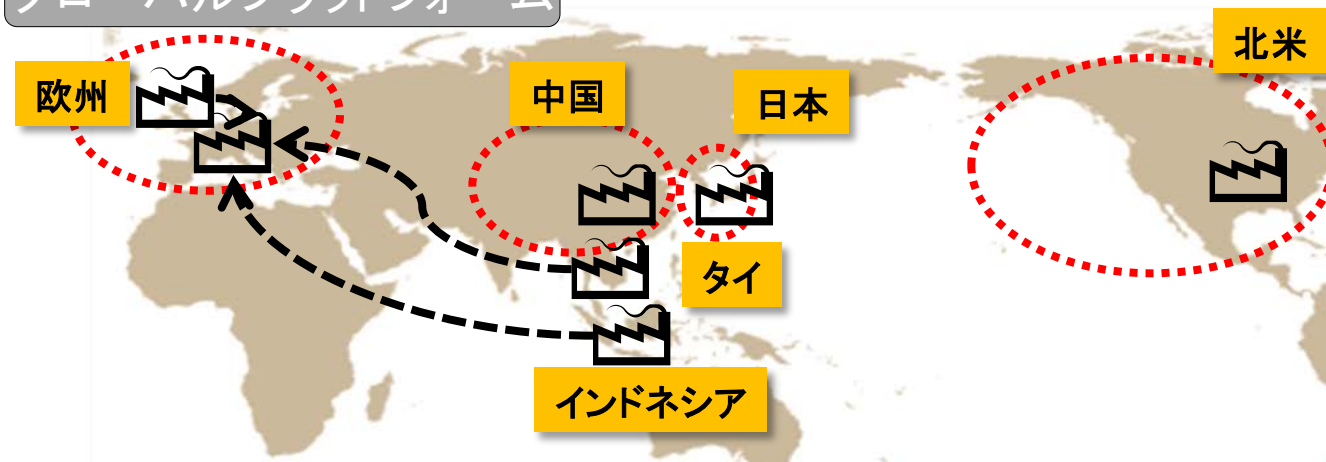


お客様の期待を上回る技術力・製品展開力を目指します。

成長戦略の実現に向けて

グローバルネットワークによる対応

グローバルプラットフォーム



- 日欧量販車向け
ディスクブレーキ
- 日本で開発、日本、
北米、インドネシア、
タイ、中国で製造
- 生産開始は13年6月
- 予想売上：
2015年€85百万

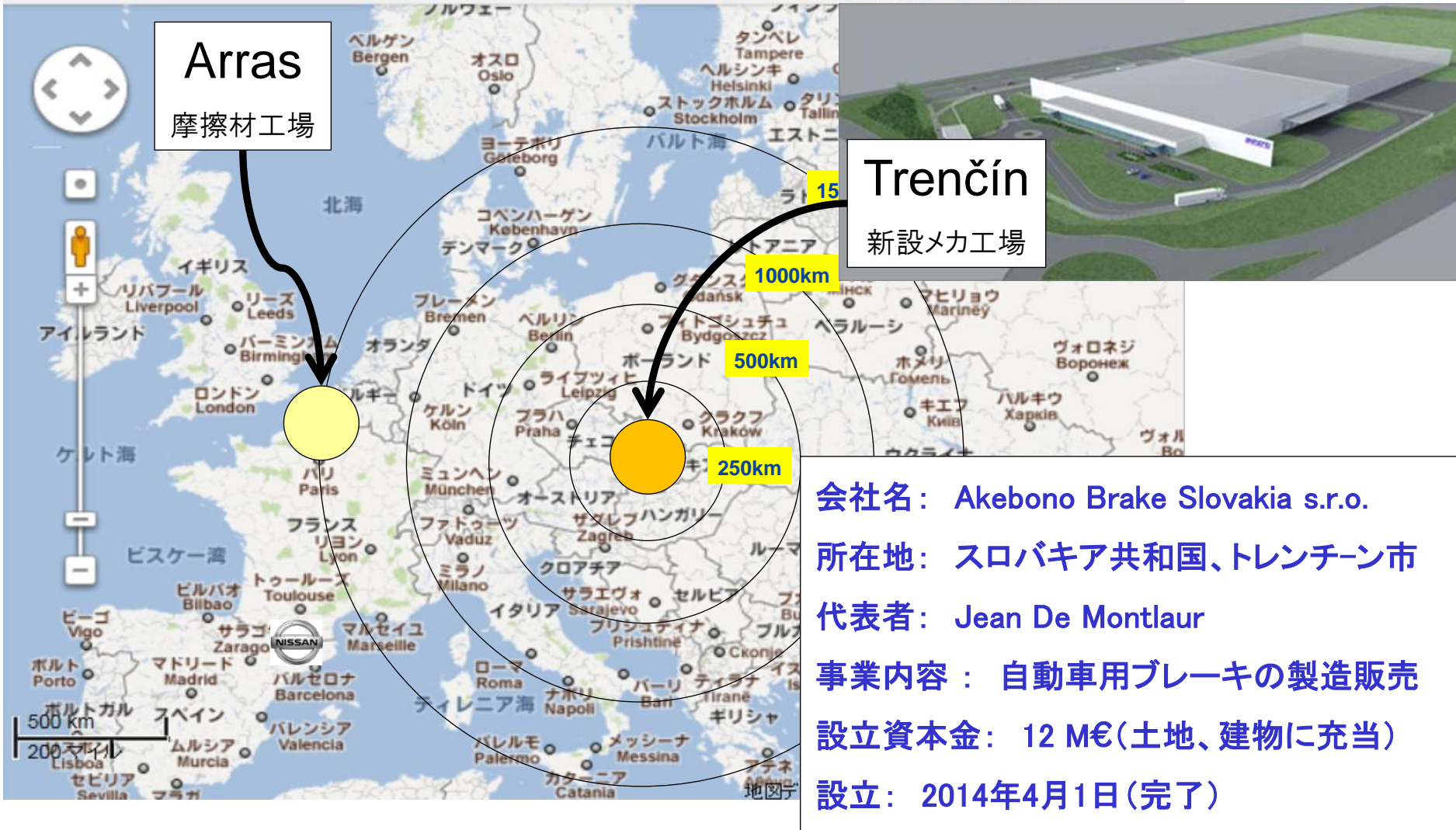
ハイパフォーマンス向け

- 欧州高級車向け
ディスクブレーキ
- 日本で開発、米国で製造、
欧州へ出荷、組立
- 生産開始は2014年7月
- 予想売上：
2015年€14百万
2020年€35百万



成長戦略の実現に向けて

スロバキアへの進出 ⇒ アルミ鋳造も含むメカ工場の建設

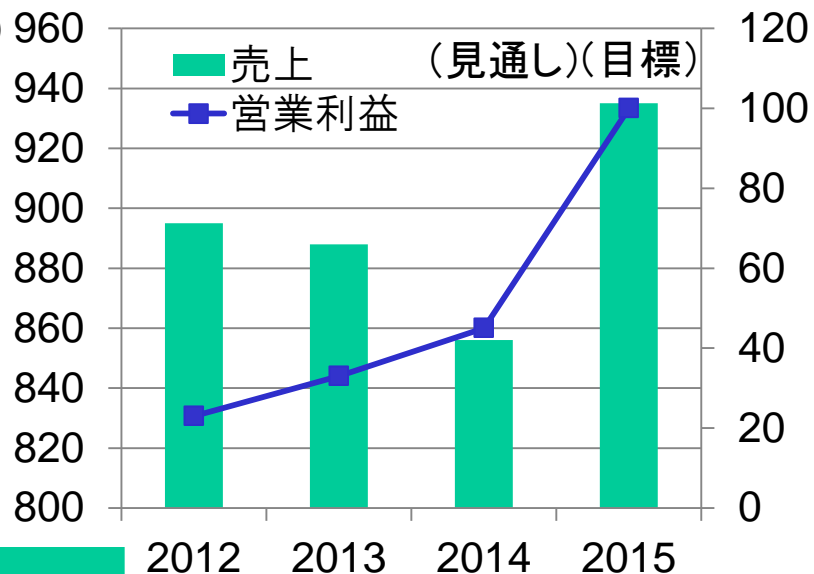


成長戦略の実現に向けて

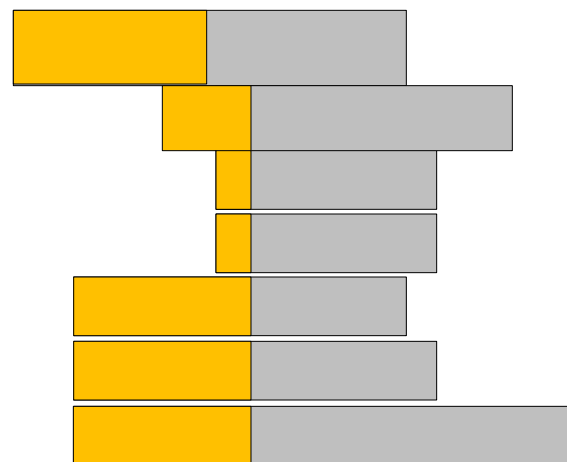
日本：技術の発信基地の位置づけ。合理化推進で収益基盤を強化

2014年：受注減に対応、
収益力を強化

(単位：億円) 960



戦略	方策
生産人員の適正化	受注に合わせた生産人員の再配分
生産再編	岩槻再創、ドラムブレーキ生産集約
不採算案件の撲滅	既存案件のコスト総点検
間接業務のスリム化	委託業務の内製化と人員適正化
補修品事業拡大	品揃えの充実、営業人員の増員と適正化
新商品開発	電動パーキングブレーキ、EV/HVブレーキ開発
次世代設備投入	量産移行

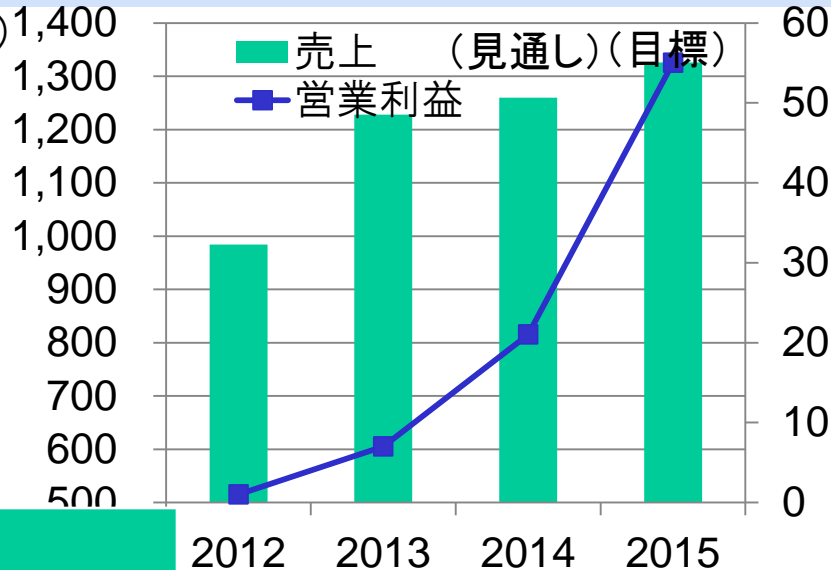


成長戦略の実現に向けて

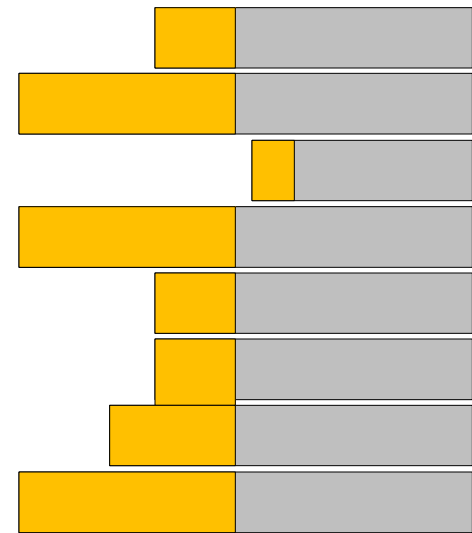
北米：黒字化定着。メキシコを含めた生産区分の最適化を推進

2014年：黒字化定着
競争力向上

(単位：億円)



戦略	方策
新規立上げによる売上増大	GM(グローバルプラットフォーム)向立上げ注力
	軟窒化処理製品の機能売込みによる拡販
鋳物調達最適化	調達先の多様化(海外含む)
コスト競争力向上	設備のC&S+t促進、設備現調化推進
	生産区分最適化(グランドデザイン)
	整流化による物流コスト削減
	メキシコへのドラムブレーキ移管
将来に向けた開発	アルミ加工製品、3点セット、銅フリー摩擦材

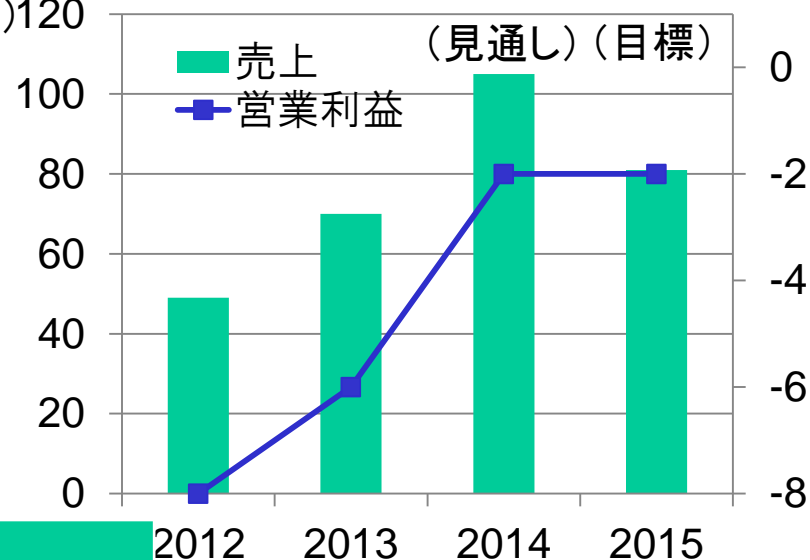


成長戦略の実現に向けて

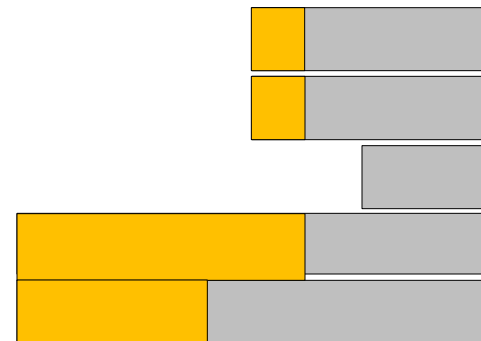
欧州：市場での本格展開開始。既存工場の再構築

**2014年：HP用ブレーキ
本格立上げ、
摩擦材工場の再構築**

(単位：億円)



戦略	方策
高性能ブレーキ製品拡販	ハイパフォーマンス車向け受注拡大 欧州市場でのプレゼンス向上
開発体制の再編	ファウンデーションブレーキ開発拠点の新設
キャリパー工場の建設	スロバキアへの進出
摩擦材工場の生産能力 増強と効率化推進	徹底的な原価低減の推進 設備ごとに異なる稼働率の平準化

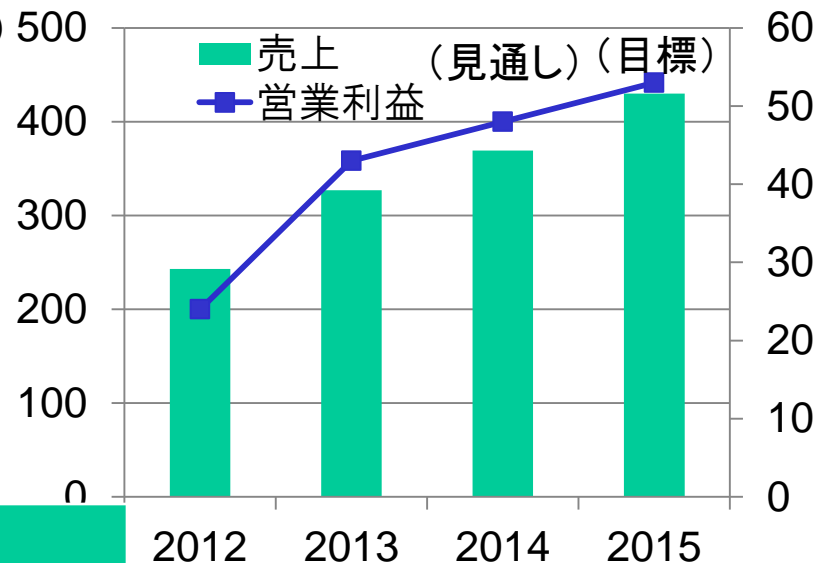


成長戦略の実現に向けて

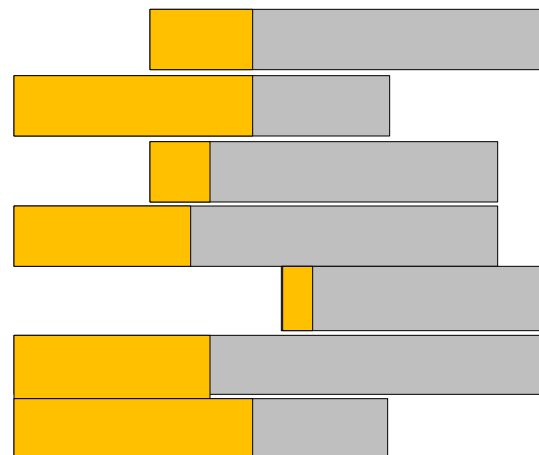
アジア: 成長市場での更なる事業拡大

(単位: 億円) 500

2014年: 事業拡大の為の
体制整備、調達最適化



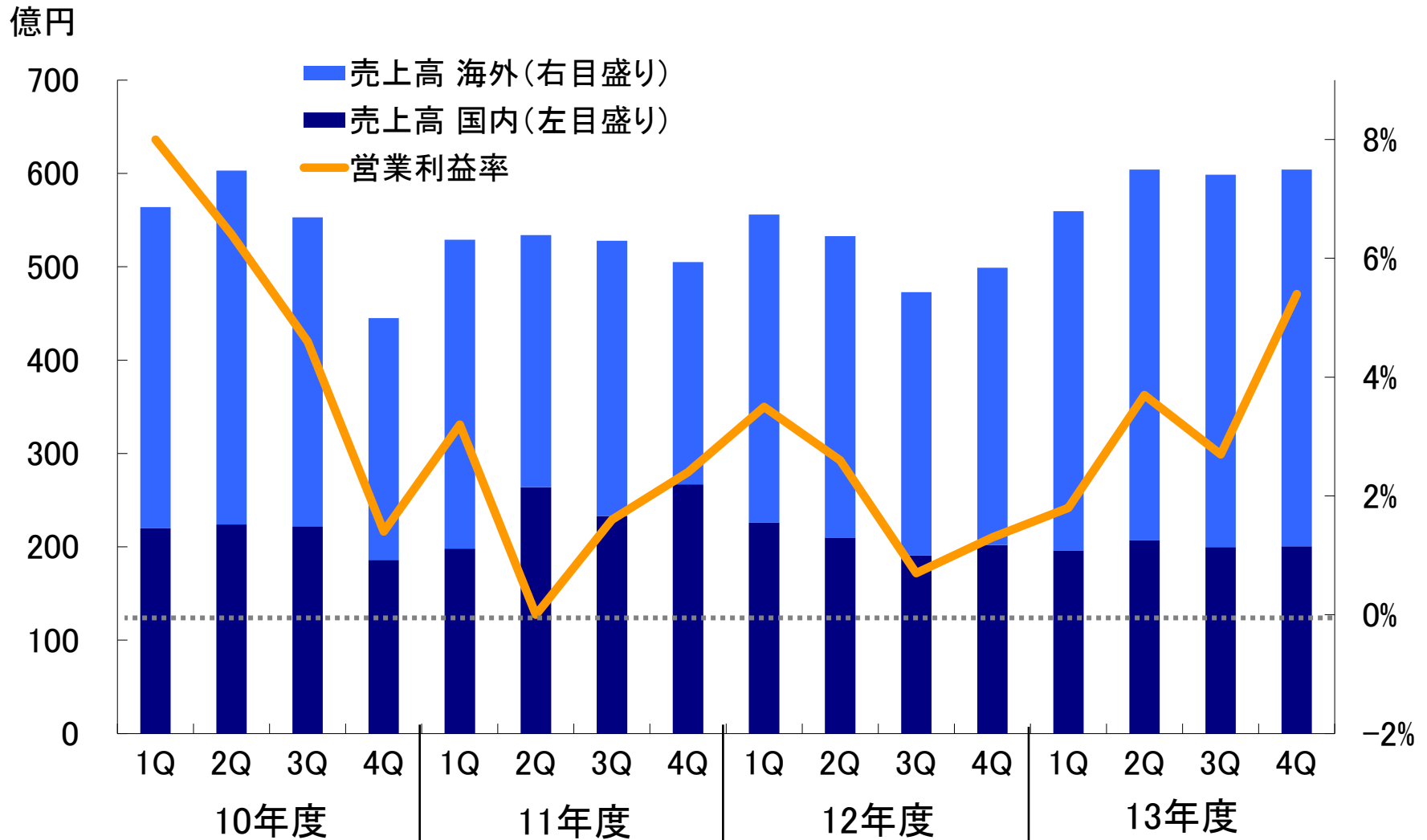
戦略	方策
グローバルプラットフォーム	アジア向け生産、欧州域内への供給
現地調達化促進	タイにおけるピストン内製化
	摩擦材原材料の現地材評価
鋳物調達最適化	ローカルサプライの安定化
地域別プロジェクト	中国: グローバルプラットフォーム対応
	タイ: 補修品摩擦材生産集中化
	インドネシア: 4輪ビジネス強化、トラック現調化対応



添付資料

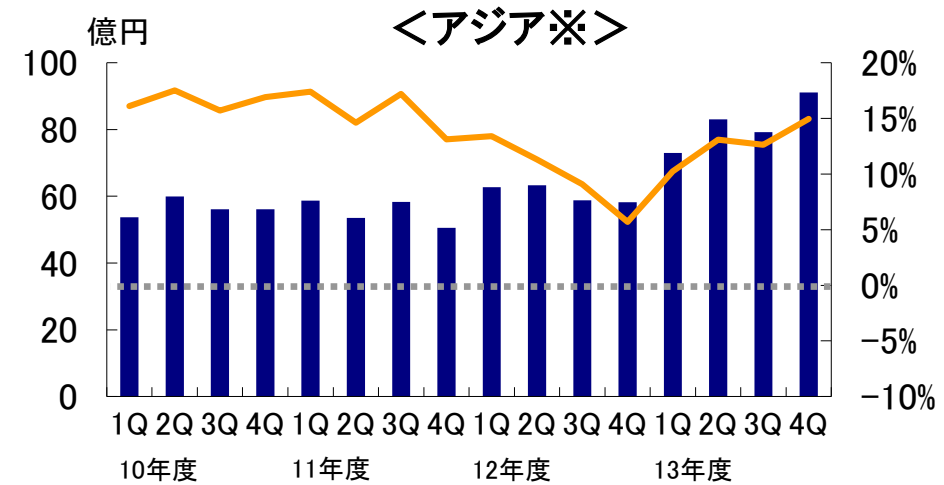
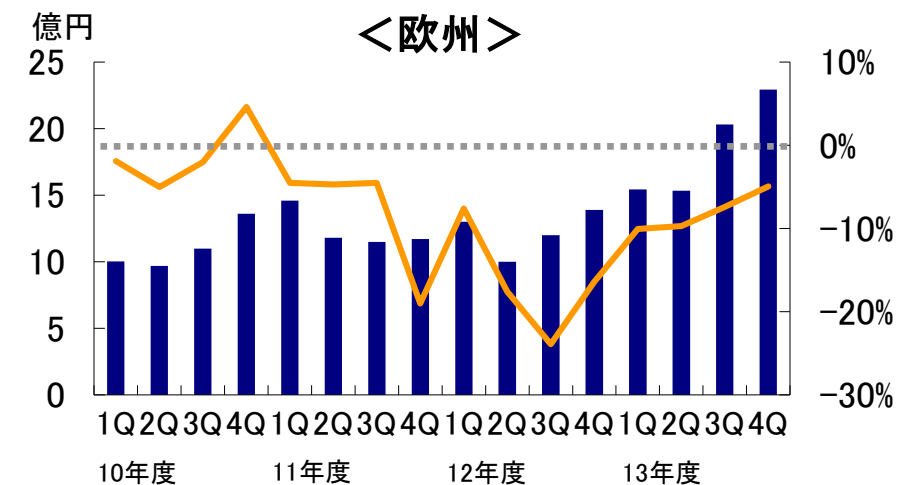
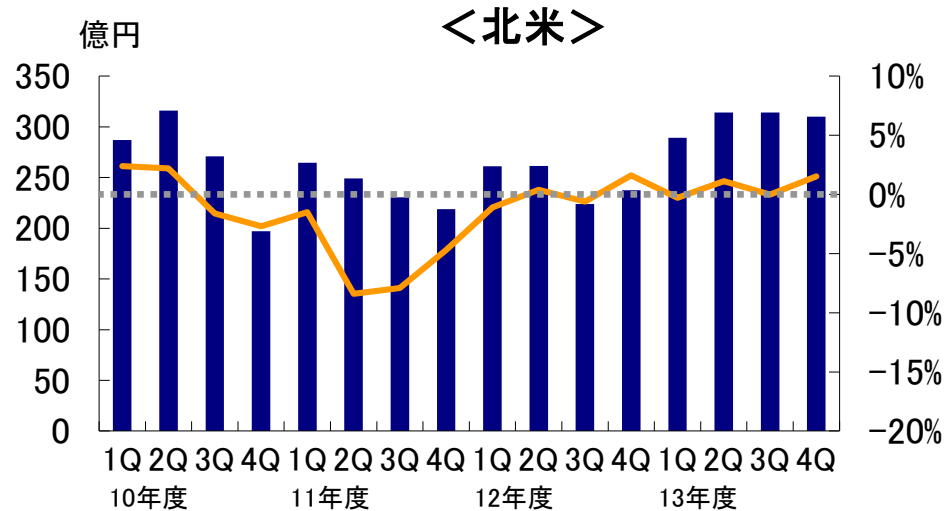
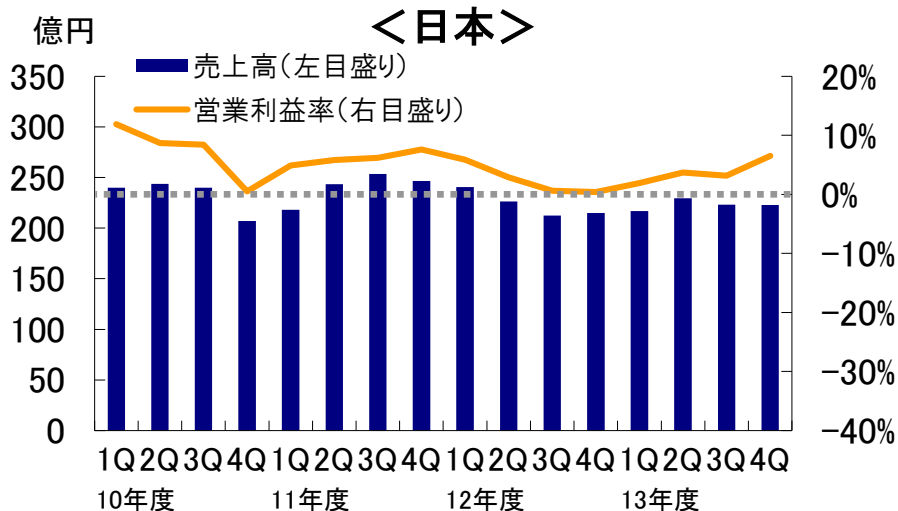
(参考1) 売上高と営業利益率のトレンド(連結)

四半期毎の売上高と営業利益率



(参考2) 売上高と営業利益率のトレンド(地域別)

四半期毎の売上高と営業利益率。いずれの地域も回復傾向

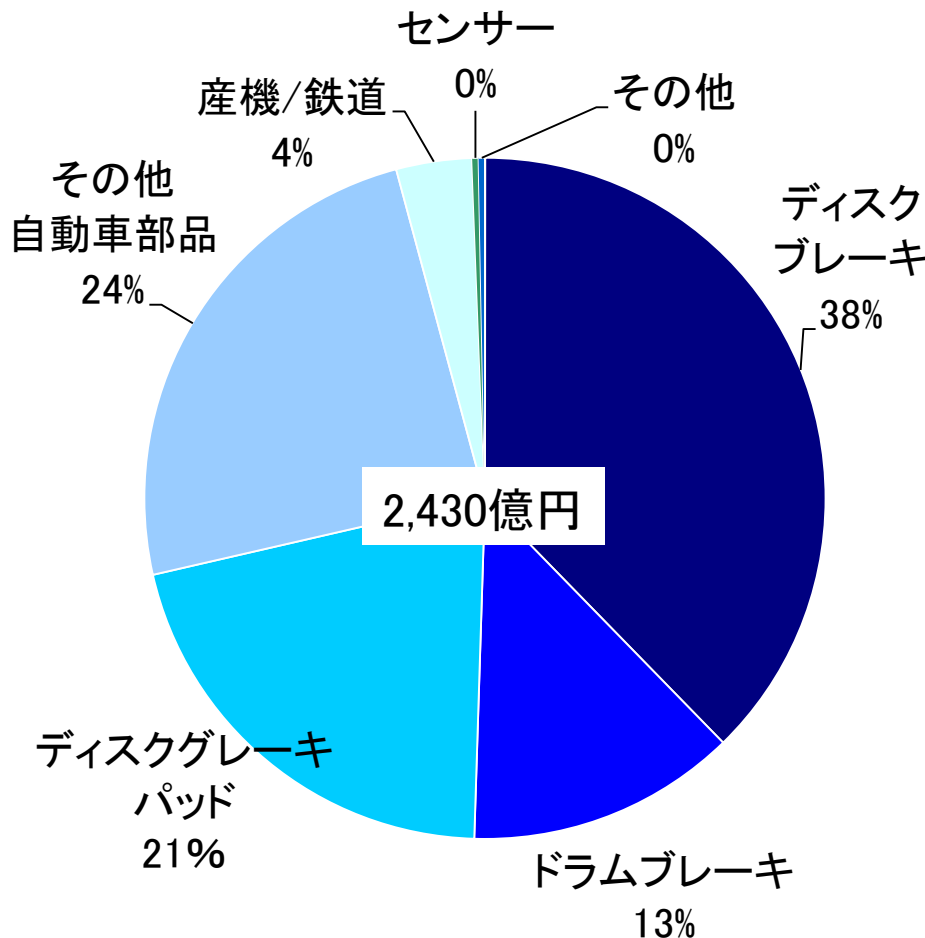


※アジアについては、従来アジア内で消去される金額を減算し表示しておりましたが、決算短信セグメント情報にあわせ単純合算の表示に変更しております。

(参考3) 製品別 売上高

ディスクブレーキが若干の増加傾向

＜2015年3月期見通し＞



	13年 3月期 (実績)	14年 3月期 (実績)	15年 3月期 (見通し)
ディスクブレーキ	36%	37%	38%
ドラムブレーキ	14%	13%	13%
ディスクブレーキ パッド	20%	21%	21%
その他自動車部品	24%	24%	24%
産機/鉄道	4%	4%	4%
センサー	1%	1%	0%
その他	1%	0%	0%
合計	100%	100%	100%

(参考4) 地域別の状況(2015年3月期、半期別)

季節要因と地域ごとの事情を反映

単位: 億円

	売上高		
	上期	下期	通期
日本	436	431	867
北米	643	617	1,260
欧州	49	54	103
中国	64	75	139
タイ	27	30	57
インドネシア	86	85	171
アジア	177	190	367
連結消去	△ 84	△ 83	△ 167
合計	1,220	1,210	2,430

営業利益		
上期	下期	通期
19	26	45
12	9	21
△ 1	△ 1	△ 2
7	7	14
1	3	4
13	13	26
21	23	44
1	1	2
52	58	110

現地通貨ベース(為替レート)	上期	下期	通期
北米: \$ mil. (¥100.0)	643	617	1,260
欧州: EUR mil. (¥140.0)	35	39	74
中国: CNY mil. (¥16.4)	390	457	847
タイ: THB mil. (¥3.1)	869	982	1,851
インドネシア: IDR bil.(¥0.0090)	956	950	1,906

上期	下期	通期
12	9	21
△ 1	△ 1	△ 1
41	47	88
50	74	124
140	146	286

(参考5) 地域別推移(現地通貨ベース)

海外ではタイ以外は現地通貨ベースでも増収

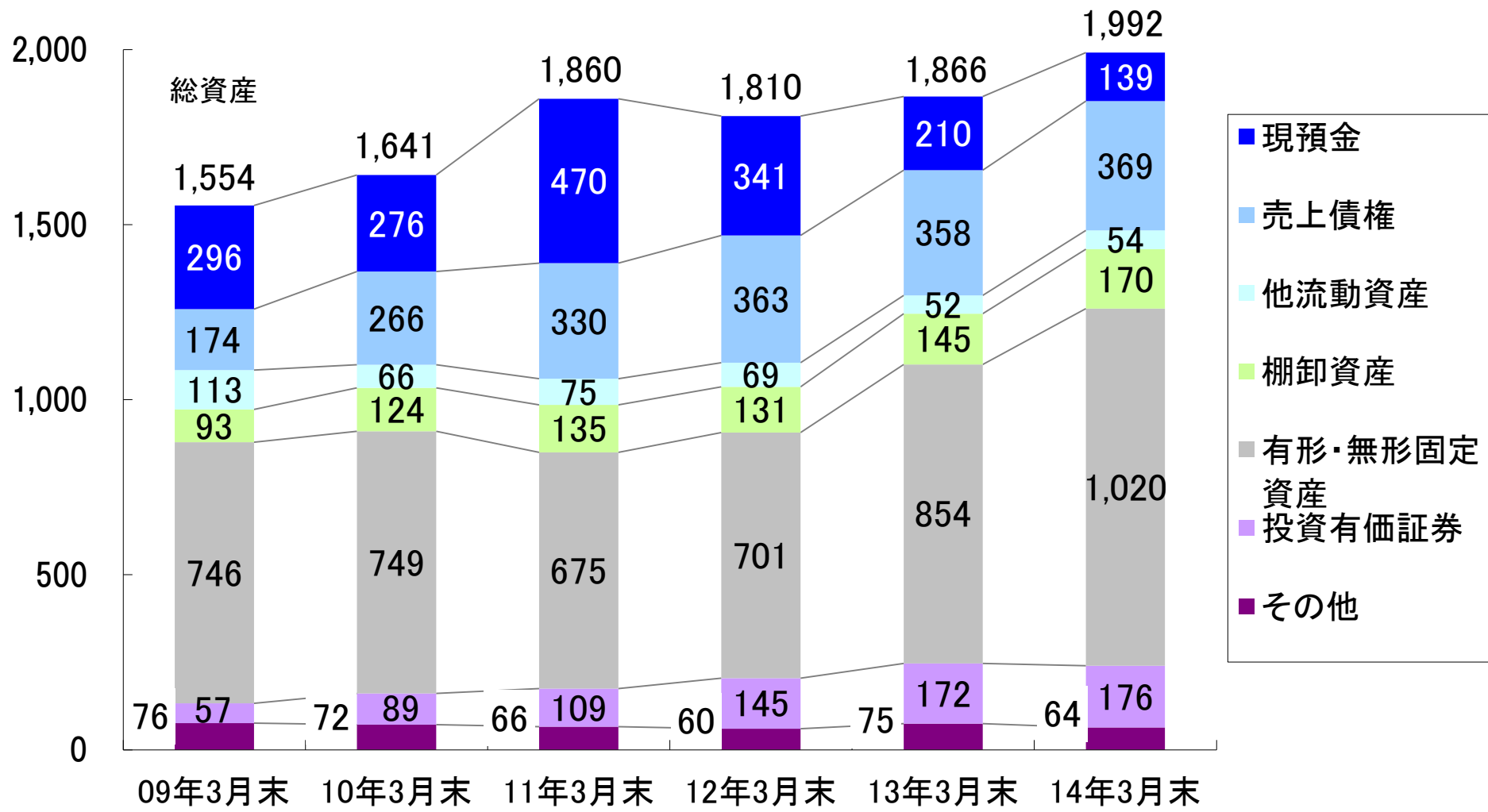
〈現地通貨ベース〉	売上高				営業利益			
	13/3月期	14/3月期	15/3月期	'14vs'15	13/3月期	14/3月期	15/3月期	'14vs'15
	実績	実績	見通し	前年比	実績	実績	見通し	前年比
北米: \$ mil.	1,228	1,253	1,260	101%	1	8	21	263%
欧州: EUR mil.	45	55	74	135%	△ 7	△ 4	△ 1	25%
中国: CNY mil.	476	676	847	125%	36	99	88	89%
タイ: THB mil.	1,959	1,937	1,851	96%	58	166	124	75%
インドネシア: IDR bil.	1,530	1,668	1,906	114%	210	222	286	129%

〈為替レート〉	13/3月期	14/3月期	15/3月期	'14vs'15
	実績	実績	見通し	変化率
USD	80.1	98.0	100.0	+2%
EUR	107.4	135.1	140.0	+4%
CNY	12.7	16.0	16.4	+2%
THB	2.6	3.2	3.1	△3%
IDR	0.0086	0.0094	0.0090	△4%

(参考6) 貸借対照表

資産の部：新規受注に合わせ固定資産が増加

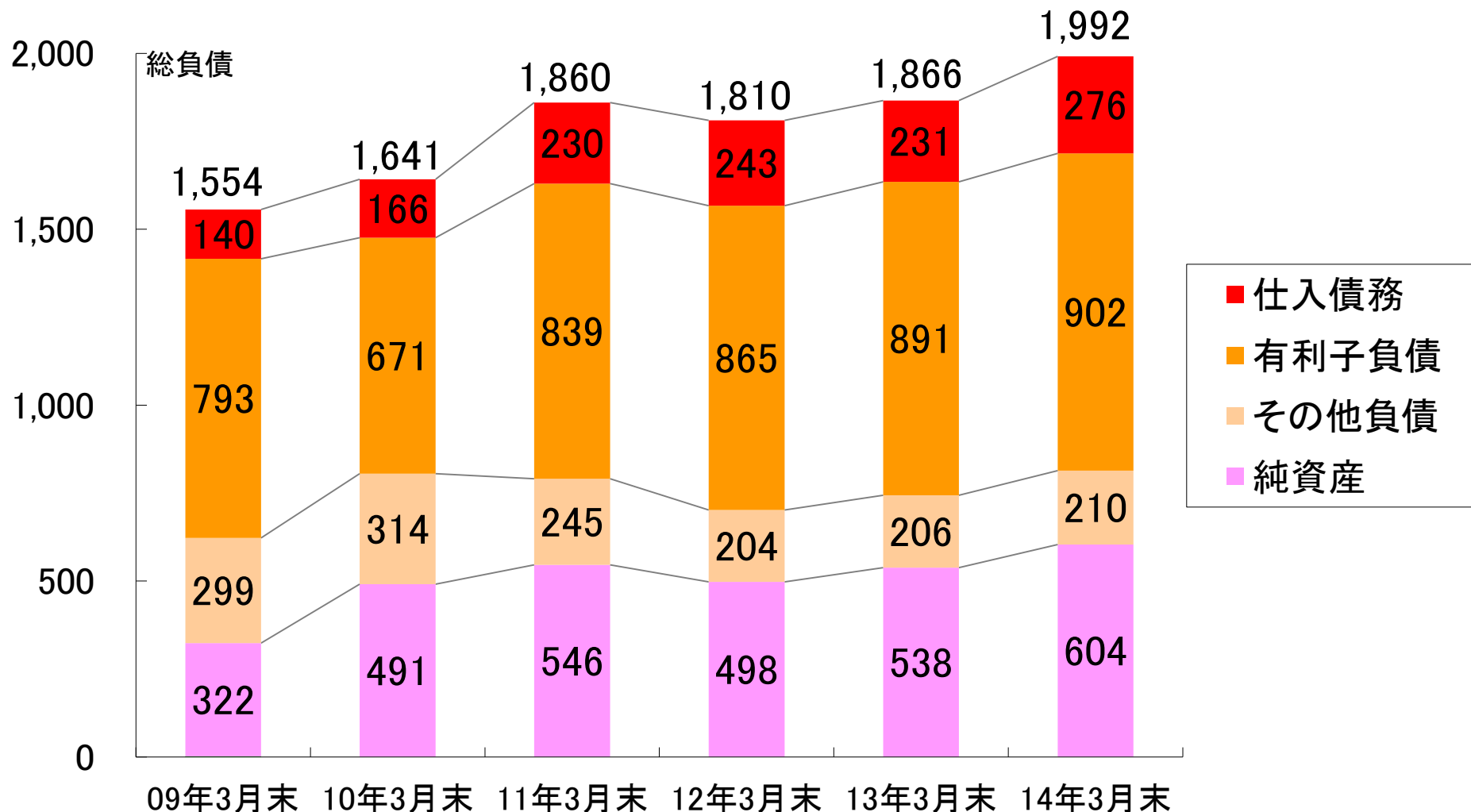
単位：億円



(参考7) 貸借対照表

負債・純資産の部：借入と自己資本が増加

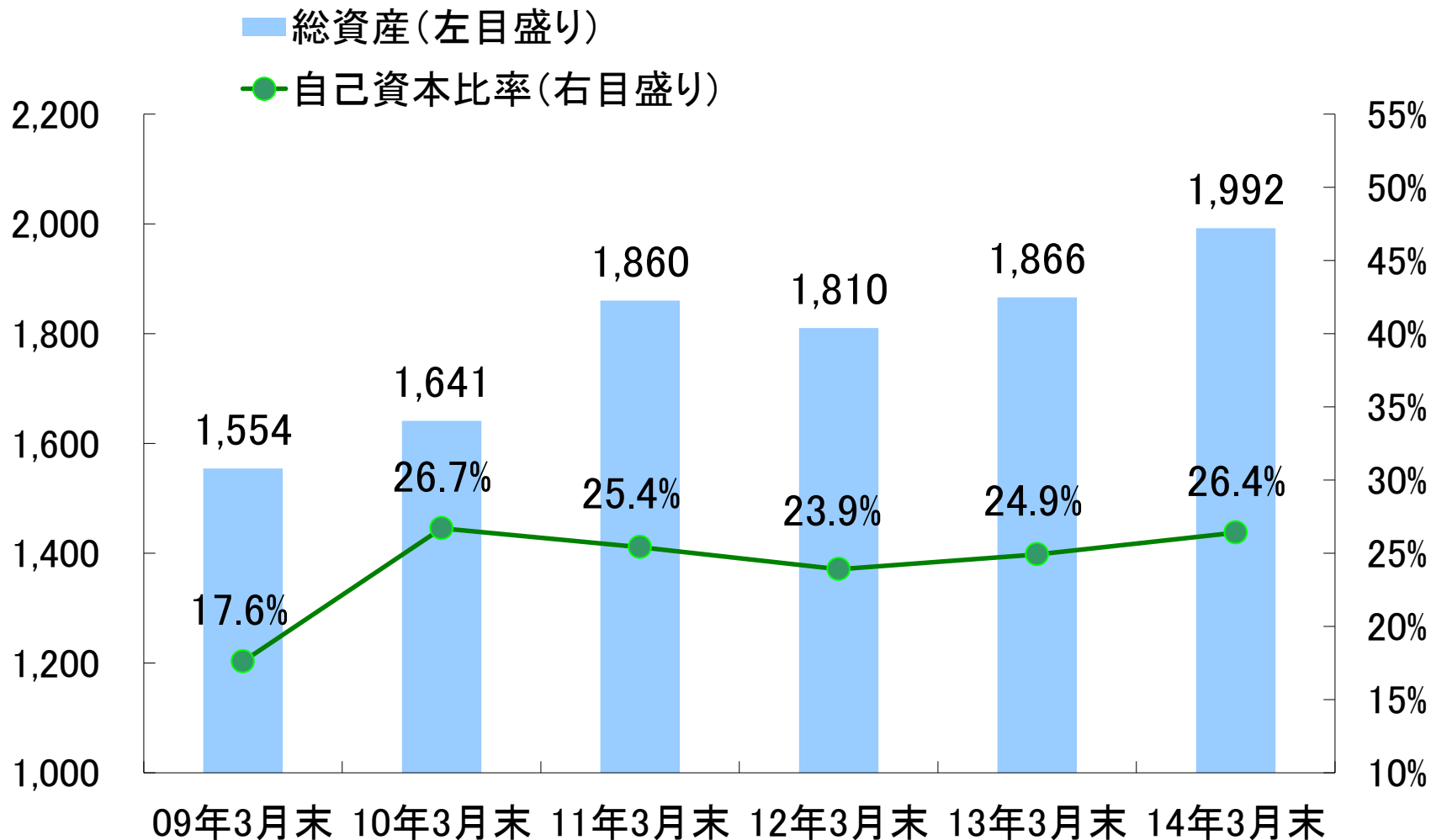
単位：億円



(参考8) 総資産/自己資本比率

自己資本比率は25%を超えた

単位: 億円

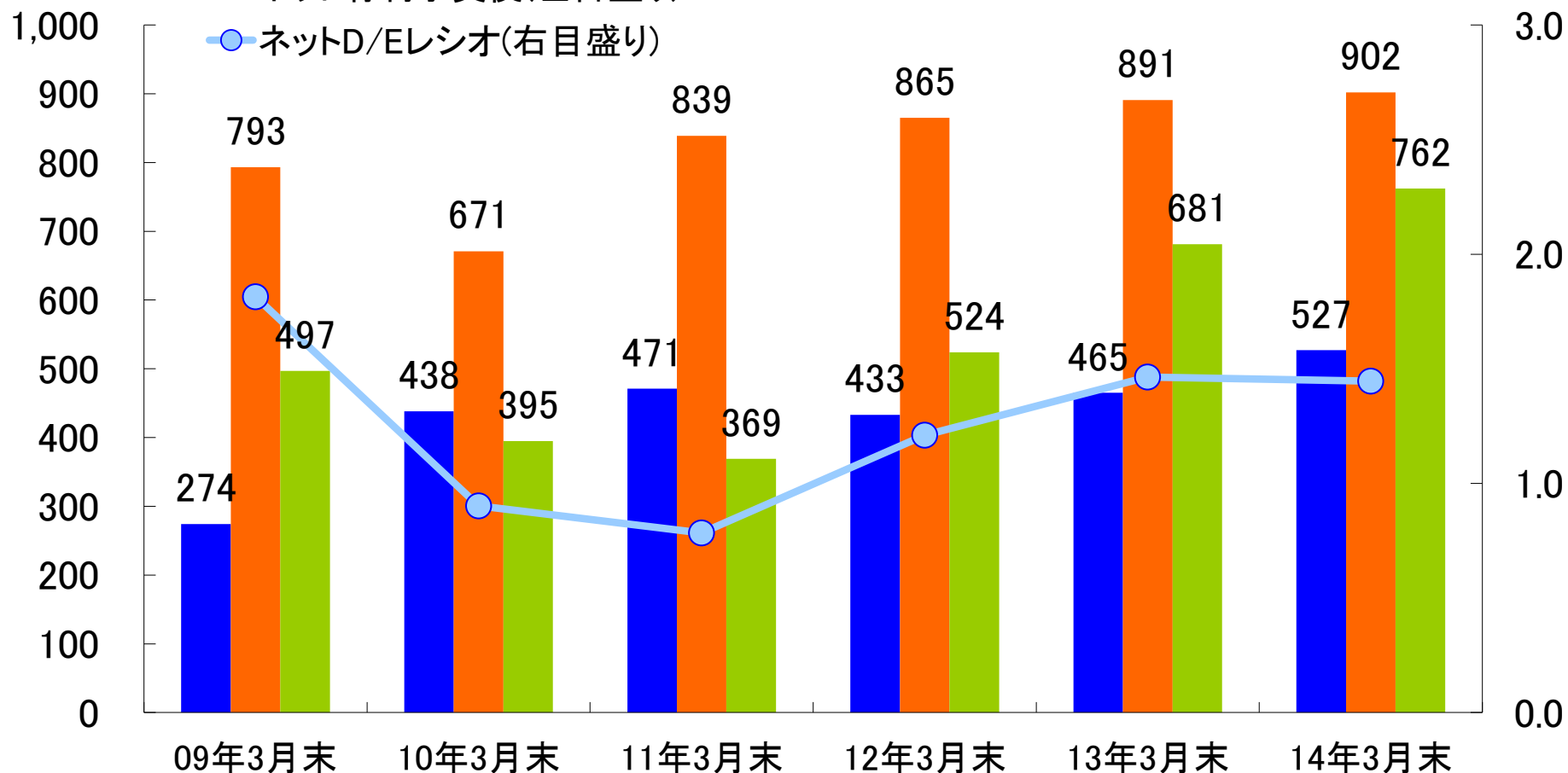


(参考9) 自己資本/有利子負債の推移

ネットDELレシオは1.4

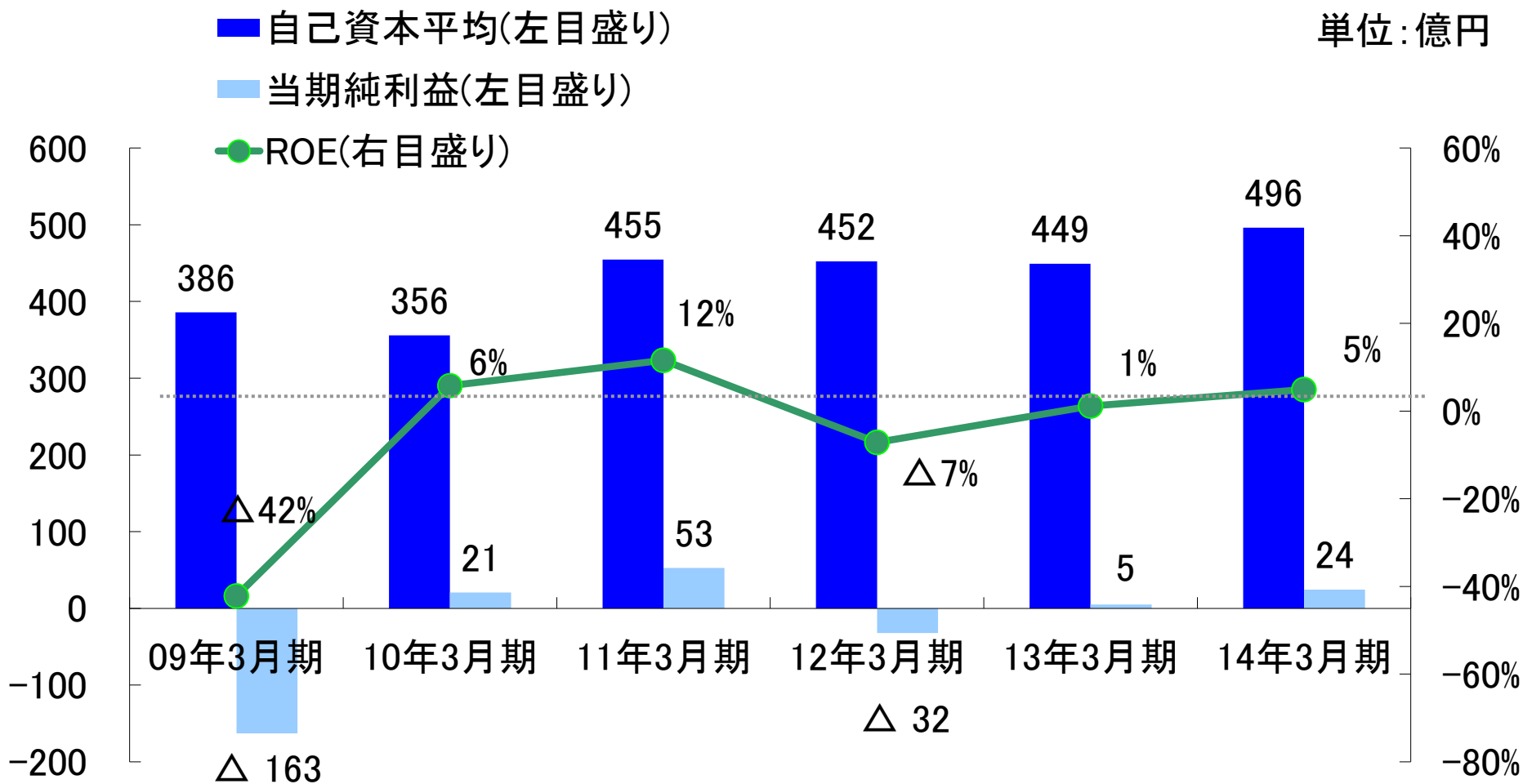
単位: 億円

- 自己資本(左目盛り)
- 有利子負債(左目盛り)
- ネット有利子負債(左目盛り)
- ネットD/Eレシオ(右目盛り)



(参考10) 自己資本利益率ROEの推移

ROEは漸く5%を超えた



業績見込み等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいた予測であり、実際の業績は当社グループをとりまく経営環境の変化、市場の動向、為替の変動等の様々な要因によりこれらの記述とは大きく異なる結果となる可能性がありますことをご承知おきください。